

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		大場 厚始		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
服飾・家政	服飾・家政専門課程		ファッションビジネス科		平成10(1998)年度	-	平成28(2016)年度		
学科の目的		本科は、ファッションのトレンド分析や商品企画、ショップの企画運営や販売促進等ファッション業界全般の知識や手法を習得する。さらにショップ実習やコーディネート実習を通してショップ運営の一連の流れを習得し、業界での即戦力となる人材を育成する。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)		AFT色彩検定3級、パーソナルカラー検定中級、上級、ファッションビジネス能力検定3級 中退率:6%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			330 単位時間	1,110 単位時間	540 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
60 人	51 人		0 人		0 %	7 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		34 人						
	■就職希望者数(D)		34 人						
	■就職者数(E)		34 人						
	■地元就職者数(F)		18 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		53 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和6年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報)								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体: -				受審年月: -		評価結果を掲載したホームページURL -		
当該学科の ホームページ URL	https://www.sdc.ac.jp/course/fb								
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数					1,980 単位時間			
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数					480 単位時間			
	うち必修授業時数					480 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					480 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間			
	(B:単位数による算定)								
	総単位数					0 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数					単位			
うち必修単位数					単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					2 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人			
	計					3 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
ファッション流通業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
業界団体 関係者	一般社団法人 日本ショッピングセンター協会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	①
関係先企業A	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業B	ビューティー系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業C	アパレル業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
中島 康弘	静岡デザイン専門学校 副校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 教務課長補佐 グラフィックデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
朝比奈 将人	静岡デザイン専門学校 トータルビューティー科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
須田 みどり	静岡デザイン専門学校 トータルビューティー科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年8月5日(月) 10:00～12:00

第2回 令和8年3月28日(金) 10:00～12:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な授業実施について協力的で、最新の技術習得に意欲的な企業を選定している。演習課題では様々なデザイン事例を活用し、新しい生活スタイルの提示法とプレゼンの方法を身につけられるよう要請している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ファッションブランド研究	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ビジネスを意識したブランド企画を行いテーマを練って独自の発想力を養う。	個人ブランド経営
ECビジネスⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	現状のECビジネスの現状を学ぶ。実習にて、自分が普段使ってる「通販」の詳細を知る。	アパレル系企業
ECビジネスⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ECビジネスの知識を「実習店舗」に活かしECショップの企画立案から開設、収支報告まで行う。	アパレル系企業
デザインアプリケーションⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	販促物を作る上での、デザインアプリIllustration、Photoshopの基礎を理解し使えるようになる。	アパレル系企業
ファッション経済学	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	1.グローバル化するサプライチェーンを経済学の視点から理解する。2.経済原則と商品価格の関連性を理解する	コンサルタント経営

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	共に学ぶチームマネジメント探求Lab	連携企業等：	合同会社&ante
期間：	2025年3月27日～5月8日	対象：	担当学科教職員
内容	チームマネジメント		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	指導力向上研修	連携企業等：	学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催
期間：	45663	対象：	学校所属全教員
内容	ファシリテーションスキル修得		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	未定	連携企業等：	未定
期間：	未定	対象：	担当学科教職員
内容	業界動向を踏まえ情報収集・技術習得などの研修を行う。具体的な内容は今後検討する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	指導力向上研修	連携企業等：	未定
期間：	未定	対象：	学校所属全教員
内容	学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は今後検討する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)教育活動
(3)教育活動	(3)教育成果
(4)学修成果	(4)学生支援
(5)学生支援	(5)教育環境
(6)教育環境	(6)学生の募集と受け入れ
(7)学生の受け入れ募集	(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8)財務	(8)社会貢献・地域貢献、国際交流
(9)法令等の遵守	(7)に項目化
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。
学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
卒業生	設計事務所	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
保護者	静岡デザイン専門学校 後援会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者代表
近隣住民代表	地元発展会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	近隣住民代表
関係先企業A	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業B	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業C	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業D	花き業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業E	美容系業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public

公表時期: 45838

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public

公表時期: 45838

授業科目等の概要

(服飾・家政専門課程 ファッションビジネス科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員兼任	企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外		
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等とおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2			○	○	△	○	
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等とおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2			○	○	△	○	
3	○			ITリテラシー	自分のパソコンに必要なとなるアプリケーションをインストールし、情報機器を連携させて活用することができるようになる。	1・前	30	1		○		○			○
4	○			ファッションビジネス論	単に衣服を生産し販売するというだけではなく、環境問題もふまえた人々のあり方を考え、服や着こなしに対する消費者のニーズを察知し、効果的な方法で消費者に提案・購入・満足してもらうためのビジネスである事を理解する。	1・通	30	1	○			○		○	
5	○			モード史	その時々々の社会環境や生活者の思いが表現される『服』というツール。歴史を紐解きながら、過去を知り、先を予見する。スタイリング提案に活かす。	1・通	30	1	○			○			○
6	○			ファッションブランド研究	ビジネスを意識したブランド企画を行いテーマを練って独自の発想力を養う。	2・通	30	1		○		○			○
7	○			マーケティングリサーチ	・商品やサービスの目的を理解しマーケティング・提供価値を構築する考え方を養う。 ・取り巻く環境、市場（企業）の動き、生活者の意識の変化からニーズ・課題に気づく力を養う。	1・前	30	1		○		○	△		○
8	○			ECビジネスⅠ	現状のECビジネスの現状を学ぶ。 実習にて、自分が普段使っている「通販」の詳細を知る。 基礎、知識を活かして実践する。	1・後	30	1		○		○			○
9	○			ECビジネスⅡ	ECビジネスの知識を「実習店舗」に活かしECショップの企画立案から開設、収支報告まで行う。	2・後	30	1		○		○			○
10	○			デジタルマーケティングⅠ	デジタルメディアを理解し、セルフプロモーション力を習得する。	1・通	30	1		○		○	△		○
11	○			デジタルマーケティングⅡ	ファッション業界でのデジタルマーケティング活用事例を理解し、就職先の業務に活かせる。 動画を活用した販売促進を行うことができる。	2・前	30	1		○		○	△		○
12	○			デザインアプリケーションⅠ	販促物を作る上での、デザインアプリillustration、Photoshopの基礎を理解し使えるようになる。	1・通	60	2		○		○			○
13	○			デザインアプリケーションⅡ	デザインアプリillustration、Photoshopの基礎を、順を追って説明、実習の反復。1年次で習得した知識を「実習店舗」で活かし実践する。	2・通	30	1		○		○			○
14	○			マーチャンダイジング	アパレルショップのMD企画、販売、計数管理までの一連の流れをマーケティング流れの中ですすめていく。単に売上や利益を求めるだけでなく、利益をどのように社会に還元していくかという観点でMD企画をすすめる。	1・後	30	1		○		○			○
15	○			VMD	店舗、売り場づくりの基本である【商品陳列】から【演出】についての一般的な知識と技術の習得。ブランドコンセプトや商品特性に基づく演出や陳列を学び、VMDを活かした店舗設計やゾーニングができる。	1・後	30	1		○		○			○
16	○			ショップディスプレイ	VMDの基礎知識を応用して、ブランドのイメージ戦略をビジュアル化する技術を身につける。自ら企画立案、計画に基づくインスタレーションを作成し、売場づくりや展示会において顧客の心を掴む発想力を訓練する。	2・前	30	1		○		○			○
17	○			ファッショントレンドⅠ	世界のファッションシーン全体の動向を俯瞰して理解し、プロの業界人として知っておくべき基礎知識を修得する。	1・通	30	1	○			○			○
18	○			ファッショントレンドⅡ	パラダイムシフトの中におけるファッションの変化を理解しながら、新時代の業界人の役割を理解する。	2・後	30	1	○			○			○
19	○			アパレル素材論	素材の基礎知識を学び、応用編では、接客コンテストに活かせる、具体的なアイテムを用いて素材感の表現、購入後の管理の仕方などを学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○
20	○			ファッション経済学	1. グローバル化するサプライチェーンを経済学の視点から理解する。2. 経済原則と商品価格の関連性を理解する	2・前	30	1	○			○			○
21	○			商品企画Ⅰ	・アパレル生産地としての静岡の歴史を知る。 ・OEMの業務を学びメーカーや営業職への就職活動をスムーズに行うことができる。 ・ビジネスによって「伝統」や「理念」を伝えることできる。	1・通	30	1		○		○			○
22	○			商品企画Ⅱ	OEMによってサステナブルな商品を企画・生産・販売までを行う。バーチャルショップも立ち上げるが、単にデジタル化が目的ではなく、デジタルのメリット・デメリットを体験することによって、消費者、企業双方にとって理想的な「リアル」と「バーチャル」の融合の形を追っていく。	2・通	30	1		○		○			○
23	○			カジュアルアイテム	アパレル商品が豊富に流通する今日、その市場動向を決定しているのはファッションに自己の個性・時代を投影し表現しようとする「成熟した消費者」である。この「成熟した消費者」とメーカーを有機的に結びつけることのできる専門知識を習得。	1・前	30	1		○		○			○
24	○			ドレスアイテム	1、ドレスファッションのルールを理解する 2、ビジネスシーンやオケーションによる装いを学ぶ 3、ドレスカジュアルを理解する（トレンド含む）	2・後	30	1		○		○			○
25	○			バイイング演習	バイヤーという仕事（機能）が現場でどのような役割を果たしているかをリアルに感じとってもらい、学んで学んだ知識を実際にどのように活かしていけば良いのかを学ぶ。	2・前	30	1		○		○			○
26	○			色彩学	ファッションビジネスに関連する仕事を遂行する上で必要とされる色彩の基礎や配色、イメージにあったカラーコーディネート習得し、色彩検定3級合格を目指す。	1・前	60	2		○		○			○
27	○			パーソナルカラー	ファッションビジネス業界におけるカラーコーディネートの重要性・関連性に基づき、パーソナルカラーの知識を身につけ、自分ブランディングからお客様にアドバイスできる力を習得。パーソナルカラー検定モジュール1（初級レベル）合格を目指す。	1・通	30	1		○		○			○

28	○		コミュニケーション技法	・販売技術や接客マナーを習得する上で前提となる、「コミュニケーション」の重要性や基本的な考え方を学び、新しく出会う人達との信頼関係を築くためのスキルを実践する。・ビジネスシーンに求められるプレゼンテーションや就職活動も視野に入れた表現スキルを、具体的にシミュレーションしながら習得する。	1・通	30	1		○	○		○		
29	○		セルフプロデュース	自己分析をポートフォリオ化し、自身のパーソナリティの魅力を最大限発揮する手法を身につける。	1・後	30	1		○	○		○		
30	○		接客技術Ⅰ	実践トレーニングによる基礎項目の完全習得。セルフプロデュース力を兼ね備えたコミュニケーション能力の向上を目指す。	1・通	90	3		○	○		○	○	
31	○		接客技術ⅡA	販売現場での即戦力となる具体的な対応手法と高度なテクニックの習得を目指す。全国ロールプレイング大会に向けた実践トレーニングを行う。	2・通	30	1		○	○		○	○	
32	○		接客技術ⅡB	実践トレーニングによる高度な接客技術の習得し就職後は、即戦力になることを目指す。	2・通	30	1		○	○		○	○	
33	○		外国語接遇	1.接客英語の習得とロールプレイング 2.道具としての指差し英会話になれる	2・通	30	1		○	○		○		
34	○		ファッションコーディネート	ファッションコーディネートの基礎知識・技術を習得し、シルエット、ディテール、色・柄、素材などが異なる複数の服や服飾雑貨を、バランスよく組み合わせて、統一したイメージをつくりあげる事ができる。	1・後	30	1		○	○		○	○	
35	○		ファッションスタイリング	①トレンドをおさえ消費者の幅広いニーズに対応可能なコーディネート提案力とは。②ドレスアイテムの着こなしとトレンドミックスの手法。③カウンターカルチャーが与えたファッションスタイルとは。	2・後	30	1		○	○		○	○	
36	○		ヘアメイク基礎	メイクの基本となるアイテムや手順を学ぶ。セルフメイクを中心に、フルメイクの基礎メイクアップを習得する。同様にヘア道具の使い方からヘアの基本を習得する。	1・前	30	1		○	○		○	○	
37	○		ヘアメイク応用	1年時に習得したヘアメイク技術を応用し、様々なテストやトレンド、素材を取り入れ、活用出来る力を身につける。基礎をおさえ、自由に柔軟な発想でヘアメイク作品を制作する。	2・後	30	1		○	○		○	○	
38	○		ショップマネージメントⅠ	店舗運営に必要な売上・仕入と在庫、利益等、計数管理に関する基本知識を計算演習により習得する。	1・通	30	1		○	○		○	○	
39	○		ショップマネージメントⅡ	店舗運営において必要な売上・仕入・在庫・利益等に関する基本知識を、実習店舗の企画・運営・終了後の分析を通し、実践的に理解する。	2・通	30	1		○	○		○	○	
40	○		ビジネスプランニングⅠ	・「問題意識」をベースにした課題発見力を身につける。・企画に不可欠な要素とそれを組み立てる方法を理解する。・ベーシックな企画書の書き方（構成と表現手法）がわかる。・2年次の「ビジネスプランニングⅡ」に向けてのヒントを得る。	1・通	30	1		○	○		○		
41	○		ビジネスプランニングⅡ	・ファッションだけに限らず日常生活から社会全般まで問題意識を持って課題を発見し、そこを出発点に具体的なビジネスプランを組み立てる。・将来的に「起業」も視野に入れた仕事のイメージを作り、新しい価値をビジネスとして提案するプロセスを学ぶ。	2・前	60	2		○	○		○		
42	○		実習店舗	一般消費者に向けての店舗企画・運営を行う事で今の流行や消費者動向を体感し、より就職に向けての意識を高める事が出来る。就活においての企業へのアピールとなる。	2・通	60	2		○	○	○			
43	○		キャリアプラン	1.次年度の就職活動に向けて、自分の特性を客観的に把握しキャリアプランを立てる。2.就職活動の流れを理解して、活動の準備をする。3.ファッション業界の企業の選考方法を把握して、それぞれの選考に備える。	1・前	30	1	○		○		○		
44	○		インターンシップ	就業体験を行い就職活動に役立てることを目的とする。	1・後	30	1		○	○		○		
45	○		産学連携プロジェクトⅠ	企業や行政との連携を図り人、物、コトの活性化を目的とする。	1・通	30	1		○	○		○		
46	○		産学連携プロジェクトⅡ	企業や行政との連携を図り人、物、コトの活性化を目的とする。	2・通	30	1		○	○		○		
47	○		卒業研究	関連業界に関わるテーマを選定し深く研究する。研究成果をポートフォリオとして保存する。	2・後	60	2		○	○		○		
48	○		卒業制作	一般のお客様に、2年間の集大成を評価して頂き、就職後の実務経験に活用する事ができる。	2・通	90	3		○	○	○			
49	○		ファッションビジネス特別実習Ⅰ	業界に関連する知識や技術を習得するためのスポット授業をメインとする。	1・通	30	1		○	○		○		
50	○		ファッションビジネス特別実習Ⅱ	業界に関連する知識や技術を習得するためのスポット授業をメインとする。	2・通	30	1		○	○		○		
51	○	○	共通選択科目	共通選択科目は1年次30時間以上、2年次60時間以上履修しなければならない	全	90	3	○		○		○		
合計					51	科目	64 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。		1 学期の授業期間	19 週
（留意事項）			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		大場 厚始		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
服飾・家政	服飾・家政専門課程		ファッションデザイン科		平成12(2000)年度		-		平成29(2017)年度	
学科の目的	本科は、ファッション業界での活躍を目指した総合的な学習を行う。衣服作りの基本を始めとして、オリジナルブランドを立ち上げる経験を通じて企画の立て方、衣服のデザイン、パターン作成、実際の衣服製作、店頭での販売など、実務能力と技術・提案力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。また、時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応力も身につける。									
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	AFT色彩検定3級、パターンメイキング2級、3級、洋裁技術検定中級									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			480 単位時間	510 単位時間	1,980 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
		単位			単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
60 人	59 人		0 人		0 %	10 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		8 人							
	■就職希望者数(D)		8 人							
	■就職者数(E)		8 人							
	■地元就職者数(F)		6 人							
	■就職率(E/D)		100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		75 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %							
	■進学者数		0 人							
	■その他									
	(令和 6 年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報)									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載					無				
	評価団体: -					受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL -				
当該学科のホームページURL	https://www.sdc.ac.jp/course/fd									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数					2,970 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					120 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					300 単位時間				
	うち必修授業時数					420 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					120 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					300 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数					0 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数					単位				
うち必修単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					2 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人				
	計					3 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換などを行い、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設け、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。また、広く、ファッション・アパレル業界の動向や必要とする素養等を伺い、本校のカリキュラムに反映する。
(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
業界団体 関係者	一般社団法人 日本ショッピングセンター協会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	①
関係先企業A	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業B	ビューティー系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業C	アパレル業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
中島 康弘	静岡デザイン専門学校 副校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 教務課長補佐 グラフィックデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
朝比奈 将人	静岡デザイン専門学校 トータルビューティー科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
須田 みどり	静岡デザイン専門学校 トータルビューティー科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月5日(月) 10:00～12:00
第2回 令和8年3月28日(金) 10:00～12:00
0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ
12月 ～ 次年度授業計画の策定
1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布
2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学習成果の評価における連携内容を明記
ファッションデザイナーがどのような職種か、ファッションデザイナーとして学んでおくべきことを、を体験的な授業を通して指導してもらえる企業を選定している。また、各自が将来展望を開くきっかけとなるような指導をお願いしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学習成果の評価における連携内容を明記
担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ソーイングⅠ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	服造りに関わる基本的な知識と技術を身につけ、基	洋服リフォーム・サロン経営
ファッションデザインⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	デザイン画を描くための基礎を学習する。人体の構	フリーデザイナー
ファッションデザインⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	デザインを創造するための発想方法を身につける。	フリーデザイナー
アパレル素材論Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	テキスタイルにおけるパターンデザインの手法を学	フリーデザイナー
ブランドプロデュースⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	アパレルメーカーにおける企画デザインからサン	洋服リフォーム経営

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： アパレル3DソフトCLO Enterprise 基礎講習	連携企業等： 株式会社ユカアンドアルファ
期間： 2024.5月から7月	対象： 担当学科教職員
内容： アパレルデザイン専攻で授業導入されるソフトの事前研修	

②指導力の修得・向上のための研修等
研修名： 指導力向上研修
連携企業等： 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： 未定	連携企業等： 未定
期間： 未定	対象： 担当学科教職員
内容： 業界動向を踏まえ情報収集・技術習得などの研修を行う。具体的な内容は今後検討する。	

②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 指導力向上研修	連携企業等： 未定
期間： 未定	対象： 学校所属全教員
内容： 学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は今後検討する。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)教育活動
(3)教育活動	(3)教育成果
(4)学修成果	(4)学生支援
(5)学生支援	(5)教育環境
(6)教育環境	(6)学生の募集と受け入れ
(7)学生の受け入れ募集	(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8)財務	(8)社会貢献・地域貢献、国際交流
(9)法令等の遵守	(7)に項目化
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。
学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
卒業生	設計事務所	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
保護者	静岡デザイン専門学校 後援会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者代表
近隣住民代表	地元発展会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	近隣住民代表
関係先企業A	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業B	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業C	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業D	花き業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業E	美容系業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public

公表時期: 45838

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public

公表時期: 45838

授業科目等の概要

(服飾・家政専門課程 ファッションデザイン科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員 専任	企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外		
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2			○	○	△	○	
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2			○	○	△	○	
3	○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2			○	○	△	○	
4	○			I T リテラシー	PC機器の基本設定から、office365を使用したコミュニケーションツールほか書類作成できる知識を身につけ る。	1・前	30	1			○	○			○
5	○			ソーイングⅠ	服造りに関わる基本的な知識と技術を身につけ、基礎アイテムの縫製工程を理解する。	1・通	150	5			○	○			○ ○
6	○			ソーイングⅡ	服作りの基礎的レベルを上げた知識と技術を学ぶ。縫製技術を応用発展させアイテムを製作する。	2・通	60	2			○	○			○
7	○			ハンドテクニック	手芸テクニックを学ぶ事で、独創的なデザインに活かせる技術の習得を目指す。	2・前	60	2			○	○			○
8	○			パターンメイキングⅠ	人体の構造に基づくパターンメイキングの基礎、並びに立体の展開方法を学習する。	1・通	90	3			○	○			○
9	○			パターンメイキングⅡ	パターンメイキングⅠを発展させ、ジャケットなどパーツ数の多いアイテムパターンを学習する。	2・前	60	2			○	○			○
10	○			パターンメイキングⅢ	アパレルメーカーにおける実践的なパターンメイキングについて学習する。	3・前	30	1			○	○			○
11	○			ドレーピングⅠ	立体裁断の基礎を学びベーシックスローパーの組立てを身につける。トワルの取り扱いとピンワーク〜ドラフ ティングを学習する。	1・後	30	1			○	○			○
12	○			ドレーピングⅡ	ドレーピングでのデザインまたはテクニック別の組立て方を学習する。	2・前	30	1			○	○			○
13	○			アパレルCADⅠ	CADシステムの理解とアパレル業界での必要性を認識し、CAD操作の基礎を学ぶ。	2・後	30	1	○			○			○
14	○			アパレルCADⅡ	パターンをCADに置き換える手順を覚え、作業を効率化する手法を学ぶ。	3・前	30	1	○			○			○
15	○			ファッションデザインⅠ	デザイン画を描くための基礎を学習する。人体の構造を学び、プロポーションを正しく理解する。	1・通	60	2	○			○			○ ○
16	○			ファッションデザインⅡ	デザインを創造するための発想方法を身につける。公募のコンテストに応募し入賞を目指すことで、ファッ ションデザインの感性を高める。	2・通	60	2	○			○			○ ○
17	○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル素材に興味を持ち、様々な組み合わせや総合的なマテリアルに関する知識を得る。	1・通	30	2	○			○			○
18	○			アパレル素材論Ⅱ	テキスタイルにおけるパターンデザインの手法を学び、オリジナリティあるデザイン表現を学ぶ。	2・前	30	1			○	○			○ ○
19	○			ファーストプロジェクト	デザインしたイメージを創作造形することを主題にし、服づくりへの興味を深め、知識技術の重要性を知る。	1・前	60	2			○	○		○	
20	○			デザインリサーチⅠ	テーマをデザイン展開する上での考え方や、実践的アプローチの方法を学ぶ。	1・後	90	3			○	○		○	
21	○			デザインリサーチⅡ	デザインアイデアを導き出す視点と創作を並行しながら、発想を展開させる手法を学ぶ。	2・後	30	1			○	○			○
22	○			色彩学	色彩理論の基礎を学習する。感性を磨くと共に、色彩検定3級合格を目指す。	1・前	60	2	○			○			○
23	○			ファッショントレンドⅠ	業界誌WWDジャパンを教材に、世界のコレクション情報からトレンドや業界動向を知る。	1・通	30	1	○			○	△	○	○
24	○			ファッショントレンドⅡ	業界誌WWDジャパンを教材に、世界のコレクション情報からトレンドや業界動向を知る。	2・通	30	1	○			○	△	○	○
25	○			ファッショントレンドⅢ	業界誌WWDジャパンを教材に、世界のコレクション情報からトレンドや業界動向を知る。	3・通	30	1	○			○	△	○	○
26	○			現代ファッション史	ファッションの歴史からデザインやアイテム、ほかディテールについて学ぶ。	1・通	30	1	○			○			○
27	○			デザインアプリケーションⅠ	adobe社のillustratorやPhotoshopの基本的な使い方を習得する。	1・通	60	2	○			○		○	

[illegible]

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件：・必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がないこと 履修方法：必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。	1 学年の学期区分 2 期 1 学期の授業期間 19 週

(留意事項)

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		大場 厚始		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
服飾・家政	服飾・家政専門課程		トータルビューティー科		平成22(2010)年度	-	平成28(2016)年度		
学科の目的	本科は、ブライダル分野とビューティー分野において専門的な知識、技術を身につけると同時にサービス業界に就くための礼儀やマナーを習得する。更にコンクール参加や模擬ブライダルの企画運営を通して実践力を付けると同時にホスピタリティーの心を磨き、当業界で活躍できる人材育成を目的とする。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	AFT色彩検定3級、メイクアップ検定1級、2級、ネイリスト検定1級、2級、ジェルネイル検定初級、サービス接客検定								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			360 単位時間	330 単位時間	1,230 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
60 人	63 人		0 人		0 %	3 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		27 人						
	■就職希望者数(D)		27 人						
	■就職者数(E)		27 人						
	■地元就職者数(F)		23 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		85 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報)								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体: -				受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL -				
当該学科の ホームページ URL	https://www.sdc.ac.jp/course/tb								
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				1,920 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				300 単位時間				
	うち必修授業時数				300 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				300 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位				
うち必修単位数				単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				2 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				3 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				3 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」
関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
ビューティー業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
業界団体 関係者	一般社団法人 日本ショッピングセンター協会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	①
関係先企業A	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業B	ビューティー系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業C	アパレル業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
中島 康弘	静岡デザイン専門学校 副校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 教務課長補佐 グラフィックデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
朝比奈 将人	静岡デザイン専門学校 トータルビューティー科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
須田 みどり	静岡デザイン専門学校 トータルビューティー科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年8月5日(月) 10:00～12:00

第2回 令和8年3月28日(金) 10:00～12:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 実践的な授業実施について協力的で、最新の技術習得に意欲的な企業を選定している。演習課題では様々なデザイン事例を活用し、新しい生活スタイルの提示法とプレゼンの方法を身につけられるよう要請している。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ネイル実習Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ネイルケアにおける知識・基礎、アート技術の実践	静岡ネイルサロン＆ネイルスクールirodori
ネイル実習Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	サロンワークで多種多彩に提供できるネイルアート	R Nail Studio
化粧品学・スキンケア・エステⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	皮膚構造学から栄養学まで、心と身体的美と健康	(有)アルソア明樹
モニターサロン	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	習得した知識や技術を組み合わせ、実践教育の場	ネイルサロン ルラン
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名： ヘアメイク研修			連携企業等：上田塾
期間： 4月～12月			対象：学科担当教員
内容： ヘアメイク研修			
研修名： JMA3級2級・1級手技確認講習			連携企業等：一般社団法人 JMA
期間： 45896			対象：学科担当教員
内容： 検定試験講習			
研修名： メイク研修			連携企業等：ミツイコーポレーション
期間： 10月、11月、3月			対象：学科担当教員
内容： メイク研修			
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名： 指導力向上研修			連携企業等：学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催
期間： 45663			対象：学校所属全教員
内容： ファシリテーションスキル修得			
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名： 未定			連携企業等：未定
期間： 未定			対象：担当学科教職員
内容： 業界動向を踏まえ情報収集・技術習得などの研修を行う。具体的な内容は今後検討する。			
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名： 指導力向上研修			連携企業等：未定
期間： 未定			対象：学校所属全教員
内容： 学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は今後検討する。			

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)教育活動
(3)教育活動	(3)教育成果
(4)学修成果	(4)学生支援
(5)学生支援	(5)教育環境
(6)教育環境	(6)学生の募集と受け入れ
(7)学生の受け入れ募集	(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8)財務	(8)社会貢献・地域貢献、国際交流
(9)法令等の遵守	(7)に項目化
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。
学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
卒業生	設計事務所	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
保護者	静岡デザイン専門学校 後援会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者代表
近隣住民代表	地元発展会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	近隣住民代表
関係先企業A	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業B	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業C	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業D	花き業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業E	美容系業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

授業科目等の概要

(服飾・家政専門課程 トータルビューティー科)														
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場 所	教 員	兼 任	企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習				
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・ 通	60	2			○	○	△	○
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・ 通	60	2			○	○	△	○
3	○			ITリテラシーⅠ	PCのセットアップからオフィスアプリを中心にPCの基本操作を習得する。	1・ 通	60	2		○		○		○
4	○			ITリテラシーⅡ	オフィスアプリを中心に企画書やプレゼン資料の制作、PCを活用し企画提案するためのスキルを習得する。	2・ 通	60	2		○		○		○
5	○			メイク実習Ⅰ	スキンケアテクニックからノーナルメイク及びモードメイクまで施術できる実践スキルを身につける。 日本メイクアップ技術検定2級取得を目指す。	1・ 通	##	4			○	○		○
6	○			メイク実習Ⅱ	メイクコンテストチャレンジを通して、個に合わせてデザインを形にするテクニックやメイキャップ現場で対 応できる応用スキルを身につける。 日本メイクアップ技術検定1級取得を目指す。	2・ 通	##	4			○	○		○
7	○			ネイル実習Ⅰ	ネイルケアにおける知識・基礎、アート技術の実践スキルを学ぶ。 JNACネイリスト技能検定試験3級取得を目指す。 JNAジェルネイル技能検定試験初級取得を目指す。	1・ 通	##	4			○	○		○
8	○			ネイル実習Ⅱ	サロンワークで多種多様に提供できるネイルアート技術を学ぶ。 JNACネイリスト技能検定試験2級取得を目指す。 JNAジェルネイル技能検定試験中級取得を目指す。	2・ 通	##	4			○	○		○
9	○			化粧品学・スキンケア・エステⅠ	皮膚構造学から栄養学まで、心と身体之美と健康を内面から維持・サポートできる知識を習得する。	1・ 通	60	2	○			○		○
10	○			化粧品学・スキンケア・エステⅡ	エステティックにおける理論を習得し、体現するためのトレーニングを行う。 メイクアップ知識検定ベーシックの習得を目指す。	2・ 通	60	2			○	○		○
11	○			接客マナーⅠ	接客に求められる基礎的な知識やマナーを習得する。 サービス接客検定3級取得を目指す。	1・ 後	30	1	○			○		
12	○			接客マナーⅡ	接客に求められる会話を習得し、人前で話す時の立ち振る舞いを身につける。	2・ 前	30	1		○		○		○
13	○			接客・カウンセリングⅠ	接客に求められる基礎的な技術とホスピタリティを理解し、体現するためのトレーニングを行う。	1・ 通	30	1		○		○		○
14	○			接客・カウンセリングⅡ	接客の基礎知識と心持をベースに、より実践的に柔軟に対応できるスキルを身につける。	2・ 通	30	1		○		○		○
15	○			着付けⅠ	和装における日本の心・文化マナーを学び、和の装いの価値や着物の基礎知識ほか着装技術を学ぶ。 きもの講師3級取得を目指す。	1・ 通	60	2			○	○		○
16	○			着付けⅡ	様々なシチュエーションにおける和の装いについて、知識や技術を実践的に役立てることが出来る。	2・ 通	90	3			○	○		○
17	○			ヘアアレンジⅠ	ヘアデザインの基礎に必要な美容理論を学び、ヘアアレンジにつながる技術を習得する。	1・ 後	30	1			○	○		○
18	○			ヘアアレンジⅡ	ヘアデザインの応用技術を学び、より創作的なデザインアレンジができるテクニックを習得する。	2・ 前	30	1			○	○		○
19	○			色彩学	色彩の基礎を理論的に学び、感性にプラスした確かな知識に基づく提案ができる力を身につける。 色彩検定3級取得を目指す。	1・ 前	60	2	○			○		
20	○			パーソナルカラー	『その人の似合う色』という印象を理論的に分析し、見極める力を身につける。 パーソナルカラー検定中級取得を目指す。	1・ 後	30	1	○			○		
21	○			デザインアプリケーション	デザイン系ソフト、Illustrator・Photoshopの基本操作を学び、作品写真をレタッチする技術を習得する。	1・ 後	60	2		○		○		○
22	○			モニターサロン	習得した知識や技術を組み合わせ、実践教育の場でモニター実習を行うことで、プロフェッショナルとしての 意識・意欲を高める。	2・ 通	60	2			○	○	△	○
23	○			ウェディングⅠ	ブライダルにおける、儀礼的マナーと調和について学び、実地研修を通して知識を習得する。 ブライダル業界の現場で役立つ、衣装のメンテナンス方法と技術を身につける。	1・ 通	60	2		○		○		○
24	○			ウェディングⅡ	時代に添うウェディングスタイルのプランニング・挙行について実践を通じ、ブライダルコーディネートを学 ぶ。	2・ 通	60	2		○		○		○
25	○			セルフプロモーションⅠ	主体的に行動するために必要な社会人基礎力を学ぶ。 ウォーキングレッスンを通して美しい立ち振る舞いを習得する。	1・ 通	30	1		○		○		○
26	○			セルフプロモーションⅡ	主体的に行動するために必要な社会人応用力を学ぶ。 ウォーキングレッスンを通して人を惹きつける魅力を習得する。	2・ 通	30	1		○		○		○
27	○			卒業制作	様々な分野とセッションすることで、高いクオリティーを目指し、よりコンセプトualに魅せる手法を学 ぶ。	2・ 後	90	3			○	○		○

28	○		キャリアプラン	社会人として必要なビジネスマナーを学び、就職に向けた自己理解や選考に向けた準備をすることで、就職意識を高め今後の活動に備える。	1・通	60	2	○			○	○	○	
29	○		産学連携プロジェクトⅠ	地域社会・企業との外部連携を通し、習得した知識や技術の価値を体感し、社会性やコミュニケーション力を高める。	1・通	30	1			○	○	△	○	
30	○		産学連携プロジェクトⅡ	地域社会・企業との外部連携を通し、実社会の課題に取り組み、実践力を高める。	2・通	30	1			○	○	△	○	
31	○		特別実習Ⅰ	ビューティー業界のスペシャリストによる講演・デモンストレーション・実習などを体験し、向上心を高め視野を広げる。	1・通	30	1			○	○			○
32	○		特別実習Ⅱ	ビューティー業界のスペシャリストによる講演・デモンストレーション・実習などを体験し、向上心を高め視野を広げる。	2・通	30	1			○	○			○
33	○		共通選択科目	共通選択科目は1年次30時間以上、2年次60時間以上履修しなければならない	全	90	3	○		○			○	
合計					33 科目			64 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法										授業期間等	
卒業要件： ・必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がないこと										1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。										1 学期の授業期間	19 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		大場 厚始		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養 専門課程		グラフィックデザイン科		平成 9(1997)年度		-		平成28(2016)年度	
学科の目的		本科は、広告・デザイン業界における総合的な学習を行い、実務能力と技術・提案力を兼ね備えた、人材の育成を目的とする。また、時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応力も身につける。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		AFT色彩検定3級								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			450 単位時間	2,460 単位時間	180 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
		単位			単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率				
180 人	240 人		1 人		0 %	5 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		72 人							
	■就職希望者数(D)		71 人							
	■就職者数(E)		71 人							
	■地元就職者数(F)		54 人							
	■就職率(E/D)		100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		76 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		99 %							
	■進学者数		0 人							
	■その他									
	(令和 6 年度卒業者に關する令和6年5月1日時点の情報)									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無							
	※有の場合、例えば以下について任意記載									
当該学科の ホームページ URL		https://www.sdc.ac.jp/course/gd								
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)									
	総授業時数					2,910 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					870 単位時間				
	うち必修授業時数					870 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					870 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間				
	(B:単位数による算定)									
	総単位数					0 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数					単位				
うち必修単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					2 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					2 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					1 人				
	計					5 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					5 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
グラフィックデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。
(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
業界団体 関係者	静岡県広告業協会 理事長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	①
関係先企業A	デザイン系企業 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業B	通信系企業 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業C	デザイン系企業 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業D	住宅会社 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
関係先企業E	住宅会社 代表	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
関係先企業F	業界紙編集担当	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 教務課長補佐 グラフィックデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
大川 直樹	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月5日(月) 10:00～12:00
第2回 令和8年3月28日(金) 10:00～12:00
0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ
12月 ～ 次年度授業計画の策定
1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布
2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 グラフィックデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするよう常に見直し、教育課程および授業の内容を改善している。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
DTP・WEB概論	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷	個人デザイン事務所
タイポグラフィ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	グラフィックデザインにおける文字の重要性と、タイ	デザイン会社
デザイン発想	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	デザインとは何かを学び、発想する脳を作り、発想	デザイン会社
コミュニケーションデザイン	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	デザインとは何かを学び、発想する脳を作り、発想	フリーランス
コピーライティング	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	広告表現に欠かせないコピーの働きを理解すると	個人デザイン事務所
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名： 新任教員研修		連携企業等： 職業教育・キャリア教育財団	
期間： 6日間		対象： 学科担当教員	
内容： 新任教員研修プログラム			
研修名： 教育講座 佐藤卓編		連携企業等： 宣伝会議	
期間： 1日間		対象： 学科担当教員	
内容： 「すべての人に必要なデザインリテラシー」			
研修名： 第18回広告セミナー		連携企業等： SCC×CCC 共催	
期間： 1日間		対象： 学科担当教員	
内容： 「なんでもやるぞ～企画の骨格と発展について～」			
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名： 指導力向上研修		連携企業等： 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催	
期間： 45663		対象： 学校所属全教員	
内容： ファシリテーションスキル修得			
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名： 未定		連携企業等： 未定	
期間： 未定		対象： 担当学科教職員	
内容： 業界動向を踏まえ情報収集・技術習得などの研修を行う。具体的な内容は今後検討する。			
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名： 指導力向上研修		連携企業等： 未定	
期間： 未定		対象： 学校所属全教員	
内容： 学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は今後検討する。			

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)教育活動
(3)教育活動	(3)教育成果
(4)学修成果	(4)学生支援
(5)学生支援	(5)教育環境
(6)教育環境	(6)学生の募集と受け入れ
(7)学生の受け入れ募集	(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8)財務	(8)社会貢献・地域貢献、国際交流
(9)法令等の遵守	(7)に項目化
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。
学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
卒業生	設計事務所	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
保護者	静岡デザイン専門学校 後援会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者代表
近隣住民代表	地元発展会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	近隣住民代表
関係先企業A	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業B	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業C	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業D	花き業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業E	美容系業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 グラフィックデザイン科)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要		配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおして、見聞を広げ、協調性を身につける。		1・通	60	2			○	○	△	○		
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおして、見聞を広げ、協調性を身につける。		2・通	60	2			○	○	△	○		
3	○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおして、見聞を広げ、協調性を身につける。		3・通	60	2			○	○	△	○		
4	○			ＩＴリテラシー	パソコンを使用していく上で必要な取り扱いや利用の基本的知識と、データの整理方法、セキュリティに関する知識などを理解する。		1・前	30	1	○		△	○		○		○
5	○			美術・デザイン史	時代ごとの美術様式や作品を学び、内容を図解することで、まとめる力を養い情報伝達の基礎を学ぶ。また、デザインの発祥や歴史、現代に影響を与えているデザイナーについて学び、デザインワークの参考にする。		1・前	30	1	○			○			○	○
6	○			色彩学	色彩理論の基礎を学び配色法・伝達法・心理的作用等を学習する。色彩検定３級合格を目指す。		1・前	60	2	○			○			○	
7	○			広告・メディア概論	時代背景ごとの放送や印刷媒体等の広告メディアを通して、広告とは何か？クリエイターの役割とは？の概念を学ぶ。日々進化するメディアを研究し、時代にあった表現や伝え方を身につける。		1・前	30	1	○			○			○	
8	○			ＤＴＰ・WEB概論	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷製版における基本的な知識やルールについて習得する。WEBの仕組みを理解していく上で必要な知識の習得。		1・前	30	1	○			○		○	○	○
9	○			デッサン・クロッキー	立方体、円柱などの幾何形態を描写することによって遠近法などをしっかり身につける。ガラス、金属、布など質感の違いを表現する技法を修得し、観察力の向上を目指す。		1・通	90	3		○		○			○	
10	○			タイポグラフィー	グラフィックデザインにおける文字の重要性和、タイポグラフィで広がるデザイン表現の幅を学ぶ。		1・前	60	2		○		○			○	○
11	○			ビジュアルデザイン基礎	平面構成やパターンデザイン、レイアウト感覚を養う課題を通して発想力とバランス感覚を養う。		1・通	60	2		○		○		○		
12	○			イラストレーション	画材の基本的な使い方を学び、様々なモチーフをテーマに表現方法を探索しながら、パースや構図の取り方、質感表現など描き方の基礎を習得する。		1・通	60	2		○		○			○	○
13	○			立体基礎	身近な素材である「紙」を中心に、簡単なペーパークラフトの課題を進めていく中で、立体感覚・空間把握の感覚を養っていく。作業の正確さや計画性の重要性なども身に付けていく。		1・前	30	1		○		○			○	
14	○			クレイ	粘土により奥行きのある作品を造形することで、立体の感覚を身につけ、キャラクターを創造する思考方法の確立と技術の習得を行なう。クレイを用いた作品を企画から撮影・編集まで総合的に取り組み学習する。		1・後	60	2		○		○			○	
15	○			デザイン発想	デザインとは何かを学び、発想する脳を作り、発想し、編集し伝える感覚を養う。		1・通	30	1	△	○		○			○	○
16	○			コミュニケーションデザイン	発想の幅を広げながら、自分なりの表現切り口（斬り口）を見つけていく。		1・後	30	1		○		○			○	○
17	○			グラフィックデザイン基礎	デザインの現場での必須アプリであるデザイン系ソフトを学習し、基本的な操作方を習得する。企画書やレイアウトデザインを要する印刷物制作の技術力・応用力を身につける。		1・通	90	3		○		○			○	
18	○			Webデザイン基礎	Webデザインの現場で必須であるHTMLおよびCSSの基本知識と基本的なコーディング技術を学び、Adobe XDを使用した小規模サイトの基礎的なデザイン設計ができる力を身につける。		1・通	90	3	○			○			○	○
19	○			映像基礎	iMovieやpremiereといった映像編集ソフトの基本的な操作方を習得する。一眼レフやスマートフォンで撮影した画像や動画を編集するスキルを身につける。		1・後	30	1		○		○		○		
20	○			映像演習	映像表現ソフトの一つであるaftereffectの基本的な操作方を習得する。Premiereと併せて活用できるスキルを習得し、映像表現の幅を広げる。		2・前	30	1		○		○		○		
21	○			写真演習Ⅰ	シャッタースピード、絞り、被写界深度など、写真の基礎的項目を学びながら、カメラを操り写真を撮る事を楽しんで、自分のイメージを表現する。		1・通	60	2		○		○			○	○
22	○			写真演習Ⅱ	細やかなテクニックを駆使し、様々なモチーフの撮影経験を通して物のシズル感を表現出来る様にする。ストロボやスタジオ機材の使用方を身につける。		2・前	30	1		○		○			○	
23	○			コピーライティング	広告表現に欠かせないコピーの働きを理解するとともに、発想および制作の作法を身につけて、クリエイティブの質を高める。		2・前	30	1		○		○			○	○
24	○			ソーシャルデザイン	企業の実例をもとにマーケティング戦略を学び、成功例や手法を知ることでビジネスやデザイン表現の視野を広げる。グループワークやディスカッションを通して経験値を高める。		2・前	30	1	△	○		○			○	○
25	○			マーケティング基礎	マーケティングの基礎知識と考え方や、実例を通してデザインとマーケティングの関係性を学ぶ。社会との接点を意識し、環境・市場・企業の動向や消費者の意識・ニーズに対する感度を磨く。		2・通	60	2	△	○		○		○	○	
26	○			ＣＩ	企業ブランドのイメージを構築する方法、CIの役割を学習し、実際のテーマを題材としてデザイン制作を行う。		2・前	30	1	△	○		○			○	
27	○			エディトリアル基礎	雑誌編集の現場で必須ソフトであるInDesignの基本的な知識や操作方を習得する。 また、ページもののレイアウトデザインを学ぶことで、雑誌等の印刷物への応用力を身に付ける。		2・？	30	1		○		○			○	○

28	○		ユニバーサルデザイン基礎	ユニバーサルデザインの基本的な考え方や世の中の実例を知り、社会問題へ視野を向ける。多様な人々に寄り添うデザイン思考を養う。	2・後	30	1	△	○		○			○	
29	○		ポートフォリオ制作	就職活動に用いるためのポートフォリオの制作を行う。自分の作品をより効果的にみせるための手法を学ぶ。	2・後	30	1		○		○		○		
30	○		サウンド演習	PCを活用した音楽、音声の制作基礎を学び、映像編集に活かすことができる知識・技術の幅を広げる。	2・前	30	1		○		○			○	
31	○		知的財産権	著作権、意匠権、商標権、不正競争防止法等の事例や法令を通して、知的所有権に関する基本的な概念について学びます。	2・後	30	1	○			○			○	
32		○	グラフィックデザイン演習ⅠA	Illustrator、Photoshopを使用し、紙媒体を中心とした様々な印刷物の実習課題を制作。オペレーションスキルの向上と、デザイン・レイアウト力を向上する。	2・通	90	3		○		○		○	○	
33		○	グラフィックデザイン演習ⅠB	Illustrator、Photoshopを使用し、紙媒体を中心とした様々な印刷物の実習課題を制作。オペレーションスキルの向上と、デザイン・レイアウト力を向上する。	2・前	60	2		○		○		○	○	○
34		○	グラフィックデザイン演習ⅡA	Illustrator、Photoshopを使用し、紙媒体を中心とした様々な印刷物の実習課題を制作。オペレーションスキルの向上と、デザイン・レイアウト力を向上する。	3・通	90	3		○		○		○	○	
35		○	グラフィックデザイン演習ⅡB	Illustrator、Photoshopを使用し、紙媒体を中心とした様々な印刷物の実習課題を制作。オペレーションスキルの向上と、デザイン・レイアウト力を向上する。	3・前	60	2		○		○		○	○	
36		○	ビジュアルデザイン応用Ⅰ	「課題を完成させて終了」ではなく、「完成度」を高めるというプロ意識と、モノづくり・デザイン業界での仕事に必要な柔軟な思考回路を養う。	2・後	30	1		○		○			○	○
37		○	ビジュアルデザイン応用Ⅱ	「課題を完成させて終了」ではなく、「完成度」を高めるというプロ意識と、モノづくり・デザイン業界での仕事に必要な柔軟な思考回路を養う。	3・前	30	1		○		○			○	
38		○	アドバタイジングⅠ	啓蒙広告を題材として、新聞広告の企画を立て制作する。モノクロ表現とカラー表現の違いや可能性を認識する。	2・前	60	2		○		○			○	
39		○	アドバタイジングⅡ	広告媒体の制作を通し、作品のクオリティを高める実践経験を積む。	3・前	60	2		○		○			○	
40		○	パッケージデザインⅠ	商品販売に必要なパッケージについて、構造や機能、基本的な素材や技術に関する知識を身につけながら、様々な形態のパッケージデザインを制作する。	2・前	30	1		○		○			○	
41		○	パッケージデザインⅡ	商品販売に必要なパッケージについて、2年次に習得した基礎をもとに、様々な形態のパッケージデザインを経験し、完成度の高い作品制作を目指す。	3・前	30	1		○		○			○	
42		○	ユニバーサルデザイン演習	2年次のユニバーサルデザイン基礎で習得した知識をもとに、実例研修や分析を深め、社会にある問題を見つけ、解決のための企画やアイデアを考え形にする。	3・前	60	2		○		○		○	○	
43		○	キャラクタービジネス	クライアントから求められるキャラクターとその役割について研究し、キャラクターを用いた企業広告や販促物などを企画・提案し、企画書を完成させる。	3・前	30	1		○		○			○	○
44		○	エディトリアル演習	2年次で習得したInDesignのソフトを活用しながら、グループワークで雑誌制作を行う。企画・取材・デザインを一貫して行いながら、雑誌編集の実践を語る。	3・通	90	3		○		○		○		
45		○	マーケティング実践	2年次のマーケティング基礎で習得した知識をベースに、セールスプロモーションを踏まえた企画を考え実践を通して体験する。	3・通	90	3		○		○		○	○	
46		○	映像企画	テレビCMにおけるプランニングのノウハウや映像作品の構成について学び、テーマ選び・効果や意味づけなどを踏まえて企画立案し、絵コンテを完成させる。	2・前	30	1	○	△		○			○	○
47		○	映像制作Ⅰ	Premierやaftereffectなどの編集ソフトや撮影機材を使用しながら企画に沿った撮影・編集の実習体験を行い、映像制作への理解を深める。	2・通	90	3		○		○		○	○	○
48		○	映像制作Ⅱ	Premierやaftereffectなどの編集ソフトや撮影機材を使用しながら企画に沿った撮影・編集の実習体験を行い、映像制作への理解を深める。	3・前	60	2		○		○		○	○	
49		○	広告イラストⅠ	Illustrator、Photoshop、clipstudioなど用途に応じたアプリの使用方法和それらを駆使した表現方法を身につける。広告媒体で求められるイラスト制作の経験を積みクオリティ向上を目指す。	2・通	90	3		○		○			○	○
50		○	広告イラストⅡ	Illustrator、Photoshop、clipstudioなど用途に応じたアプリの使用方法和それらを駆使した表現方法を身につける。広告媒体で求められるイラスト制作の経験を積みクオリティ向上を目指す。	3・前	60	2		○		○			○	
51		○	写真表現Ⅰ	商品や人物など様々なシーンを想定した撮影経験を通して、撮影機材の使い方の習得や、写真表現の可能性を知る。	2・通	90	3		○		○	○		○	○
52		○	写真表現Ⅱ	商品や人物など様々なシーンを想定した撮影経験を通して、撮影機材の使い方の習得や、写真表現の可能性を知る。	3・前	60	2		○		○	○		○	
53		○	広告ゼミⅠ	実際に企業から依頼される仕事など実践に即したテーマに調整することで、クライアントの求めるモノを制作する力を養い、実践力を身に付ける。	2・後	30	1		○		○			○	
54		○	広告ゼミⅡ	実際に企業から依頼される仕事など実践に即したテーマに調整することで、クライアントの求めるモノを制作する力を養い、実践力を身に付ける。	3・前	30	1		○		○			○	
55		○	Webデザイン応用ⅠA	様々なケースのWebレイアウトの経験を通して、Webレイアウト力の定着・向上と、UIやユーザビリティに関する理解を深める。	2・通	90	3		○		○			○	
56		○	Webデザイン応用ⅠB	様々なケースのWebレイアウトの経験を通して、Webレイアウト力の定着・向上と、UIやユーザビリティに関する理解を深める。	2・通	150	5		○		○			○	
57		○	Webデザイン応用ⅡA	2年次に習得した知識・スキルをもとに、UIやユーザビリティをより意識したWebレイアウトのデザイン提案ができるよう実践力を身につける。	3・通	90	3		○		○			○	

58		○	Webデザイン応用ⅡB	2年次に習得した知識・スキルをもとに、UIやユーザビリティをより意識したWebレイアウトのデザイン提案ができるよう実践力を身につける。	3・通	180	6		○		○			○
59	○		卒業制作	卒制研究で企画した内容をもとに作品制作を行う。各自のテーマに沿ったデザイン制作と、作品を効果的に見せる方法を考えた計画を立てて展示まで実施する。	3・通	120	4		○		○			○
60		○	共通選択科目	専門科目の選択科目、及び特別科目の共通選択科目を合わせて1年次30時間以上、2年次480時間以上、3年次630時間以上履修しなければならない	全	120	4	○	△		○	△	△	○
合計						72 科目			98 単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
卒業要件：・必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がないこと				1 学年の学期区分	2 期
履修方法：必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。				1 学期の授業期間	19 週

- （留意事項）
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		大場 厚始		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養 専門課程		プロダクトデザイン科		平成12(2000)年度	-	平成28(2016)年度			
学科の目的	本科は、家具や照明器具、雑貨、ステーションナリー、ホビー、アクセサリーなど、日常生活の中で使われる様々な製品の企画・デザインから制作するまでのプロセスを学び、モノ作りを総合的に行うことができる人材の育成を目的とする。									
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	AFT色彩検定3級、レタリング検定3級、プロダクトデザイン検定2級、ビジネスマナー検定3級									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,940 単位時間	330 単位時間	1,800 単位時間	810 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
40 人	18 人		0 人		0 %	8 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		16 人							
	■就職希望者数(D)		15 人							
	■就職者数(E)		15 人							
	■地元就職者数(F)		11 人							
	■就職率(E/D)		100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		73 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		94 %							
	■進学者数		0 人							
	■その他									
	(令和 6 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:				無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載									
評価団体: -		受審年月: -		評価結果を掲載したホームページURL -						
当該学科のホームページURL	https://www.sdc.ac.jp/course/pd									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)									
	総授業時数				2,940 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数				270 単位時間					
	うち必修授業時数				270 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				270 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間					
	(B:単位数による算定)									
	総単位数				0 単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位					
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位					
うち必修単位数				単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				2 人					
	計				5 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				5 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」
関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
プロダクトデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。
(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
業界団体 関係者	静岡県広告業協会 理事長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	①
関係先企業A	デザイン系企業 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業B	通信系企業 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業C	デザイン系企業 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業D	住宅会社 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
関係先企業E	住宅会社 代表	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
関係先企業F	業界紙編集担当	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
中島 康弘	静岡デザイン専門学校 副校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 教務課長補佐 グラフィックデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
鈴木 宏幸	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月5日(月) 10:00～12:00
第2回 令和8年3月28日(金) 10:00～12:00
0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ
12月 ～ 次年度授業計画の策定
1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布
2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な授業実施について協力的で、最新の技術習得に意欲的な企業を選定している。演習課題では様々なデザイン事例を活用し、新しい生活スタイルの提示法とプレゼンの方法を身につけられるよう要請している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
構造基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	一般的な物の構造を分解、組立などを通して学ぶ。構造体を考える時にどうすればバランスを保てるかの感覚を磨く。	個人設計事務所
立体造形基礎Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	三面図を読み取りながら実際の形状がどのようになっているかを実際に制作し、多角的な立体構成力を身につける。	フリーデザイナー
デザイン思考論Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	現役デザイナーの外部講師により、プロデザイナーの発想法や観点を習得する。	個人工房
ユニバーサルデザインⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	UXデザインの基礎やユニバーサルデザイン、SDGsの概念の応用を習得する。	フリーデザイナー
クラフトデザインⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	伝統工芸の技術や考え方を調査・学習し、現代の生活にマッチしたクラフトデザインとは何かを考え、新しいライフスタイルを提案し、演習を行う。	フリーデザイナー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	デザインセミナー	連携企業等：	株式会社LIXIL
期間：	1日間	対象：	学科担当教員
内容	ミラノサローネ報告編		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	指導力向上研修	連携企業等：	学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催
期間：	45663	対象：	学校所属全教員
内容	ファンリテーションスキル修得		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	未定	連携企業等：	未定
期間：	未定	対象：	担当学科教職員
内容	業界動向を踏まえ情報収集・技術習得などの研修を行う。具体的な内容は今後検討する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	指導力向上研修	連携企業等：	未定
期間：	未定	対象：	学校所属全教員
内容	学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は今後検討する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)教育活動
(3)教育活動	(3)教育成果
(4)学修成果	(4)学生支援
(5)学生支援	(5)教育環境
(6)教育環境	(6)学生の募集と受け入れ
(7)学生の受け入れ募集	(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8)財務	(8)社会貢献・地域貢献、国際交流
(9)法令等の遵守	(7)に項目化
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。
学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
卒業生	設計事務所	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
保護者	静岡デザイン専門学校 後援会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者代表
近隣住民代表	地元発展会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	近隣住民代表
関係先企業A	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業B	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業C	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業D	花き業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業E	美容系業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 プロダクトデザイン科)													
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法				企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	場所 校内・校外	教員 専任・兼任
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・ 通	30	1			○	○△○	
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・ 通	30	1			○	○△○	
3	○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・ 通	30	1			○	○△○	
4	○			デッサン	遠近法がどのようなものであるかを理解する。 また、3次元で空間に存在する形を正確に描写する力を身につける。	1・ 前	60	2	○		○		○
5	○			アイディアスケッチ	レタリング技能検定に挑戦し、文字の基本とデザイン用具の使用方法を習得する。また様々な画材を使い、手 描きスケッチ技術を習得する。	1・ 前	60	2	○		○	○	
6	○			平面構成	立体・空間デザインに共通する発想・表現・配置・配色の基本を、様々な平面課題を通して学ぶ。	1・ 前	60	2	○		○		○
7	○			色彩学	色彩の基礎知識を学習し、理論的な色彩計画の提案・プランを立てる手助けとする。また、インテリア・ライ フスタイルデザインにも関連付けて学習する。色彩検定習得を目標とする。	1・ 前	60	2	○		○		○
8	○			デザイン史	デザインの歴史を学び、デザインという領域への理解を深め、デザイン活動にその考え方を活かせるようにす る。	1・ 前	30	1	○		○	○	
9	○			巨匠デザイン学	個性ある新旧の巨匠たちのデザインをとおして、その時代背景、デザインの成り立ち、製作のプロセスを知 る。	2・ 通	30	1	○		○		○
10	○			構造基礎	一般的な物の構造を分解、組立などを通して学ぶ。構造体を考える時にどうすればバランスを保てるかの感覚 を磨く。	2・ 通	30	1	○		○		○
11	○			商品企画	クライアントを設定し、社内デザイナーとして、または外部デザイナーとしてその企業に向けた商品を企画し デザインをまとめる。	2・ 後	60	2	○		○		○
12	○			プロダクトデザイン概論	プロダクト検定に基づいたデザイン開発の習得とプロダクト検定の取得を目指す。	2・ 後	30	1	○		○		○
13	○			生活雑貨デザイン	雑貨の基礎知識をもとに雑貨店に必要な販売促進アイテムをリサーチし、実際の店舗を想定して試作を行う。	2・ 通	30	1	○		○		○
14	○			パッケージデザイン	容器としてのパッキングから、パッケージの機能や基本的な素材と技術に関する知識を演習課題を通じて体験 し、考察する。	2・ 前	30	1	○		○		○
15	○			照明デザイン	光通や照明器具の知識と、住空間における光の役割を学び、空間を生かす照明デザインテクニックを習得し、 実際の図面に配灯する。	2・ 後	60	2	○		○		○
16	○			グローバルデザイン	日本固有の文化や美意識を客観的にとらえ、国際的にみた現代日本に対する評価を認識し、又、文化の多様性 を理解したうえで、実習課題を通してデザインにおける国際的な視点や考え方を学ぶ。	3・ 前	30	1	○		○		○
17	○			インテリア概論	住宅設計・デザインを考える上で、「誰のために・何のために・どうなるために」を考え、ライフスタイルか ら空間をデザインする思考を養う。	3・ 前	30	1	○		○	○	
18	○			VMD	ビジュアルマーチャンダイジングの概論を学び、原寸の空間で空間演出の実践を行う。	3・ 前	30	1	△	○	○		○
19	○			家具デザイン	世の中の全てのモノには存在理由があり、そのモノを形にする素材及び技術が必要。基本的な存在理由（コン セプト）を形にする進め方を学ぶ。	3・ 通	60	2	○		○	○	
20	○			デザイン図学Ⅰ	図面の意義、基本的な線の引き方を訓練する。また、実線、破線、寸法線など、それぞれの線種の意味を理解 する。	1・ 前	60	2	○		○		○
21	○			デザイン図学Ⅱ	図面の意義、実線、破線、寸法線などの意味を理解した上で、具体的にデザインしたプロダクトをJIS規格に 沿って三面図化する。	2・ 前	30	1	○		○		○
22	○			立体造形基礎Ⅰ	三面図を読み取りながら実際の形状がどのようにになっているかを実際に制作し、多角的な立体構成力を身に つける。	1・ 前	60	2	○		○	○	
23	○			立体造形基礎Ⅱ	三面図を読み取りながら実際の形状がどのようにになっているかを実際に制作し、多角的な立体構成力を身に つける。	2・ 前	60	2	○		○	○	○
24	○			デザイン思考論Ⅰ	デザインの基礎となるデザイン思考を養うために、調べる習慣、考える習慣、スケッチする習慣を身につけ る。	1・ 通	30	1	○		○		○
25	○			デザイン思考論Ⅱ	現役デザイナーの外部講師により、プロデザイナーの発想法や観点を習得する。	2・ 前	30	1	○		○		○
26	○			ユニバーサルデザインⅠ	UXデザインの基礎やユニバーサルデザインの基礎を習得する。	1・ 通	30	1	△	○	○	○	
27	○			ユニバーサルデザインⅡ	UXデザインの基礎やユニバーサルデザイン、SDGsの概念の応用を習得する。	2・ 通	30	1	△	○	○	○	○

28	○		伝統技法Ⅰ	竹細工・漆・染色・指物・挽物・・・静岡には優れた伝統工芸士が多く存在する。研ぎ澄まされた技術とモノづくりに対する考え方、そして伝統技術と今後のモノづくりが向かうべき道とはなにかを学ぶ。匠宿との連携。	2・後	30	1		○		○		○		
29	○		伝統技法Ⅱ	竹細工・漆・染色・指物・挽物・・・静岡には優れた伝統工芸士が多く存在する。研ぎ澄まされた技術とモノづくりに対する考え方、そして伝統技術と今後のモノづくりが向かうべき道とはなにかを学ぶ。匠宿との連携。	3・前	30	1		○		○		○	○	
30	○		クラフトデザインⅠ	伝統工芸の技術や考え方を調査・学習し、現代の生活にマッチしたクラフトデザインとは何かを考え、新しいライフスタイルを提案する。	1・後	90	3		○		○		○		
31	○		クラフトデザインⅡ	伝統工芸の技術や考え方を調査・学習し、現代の生活にマッチしたクラフトデザインとは何かを考え、新しいライフスタイルを提案し、演習を行う。	2・前	30	1		○		○		○	○	
32	○		プロダクトデザインⅠ	プロダクトデザインの基礎に沿って、デザインの基礎を習得する。	1・前	60	2	○	△		○		○		
33	○		プロダクトデザインⅡ	プロダクトデザイン『商品開発に関わるすべての人へ』に沿って、デザインの応用を習得する。	2・前	60	2	○	△		○		○	○	
34	○		デザインアプリケーションⅠ	デザインの現場で必須アプリであるデザイン系ソフトウェアを学習し、基本的な操作法を習得する。	1・通	120	4		○		○		○		
35	○		デザインアプリケーションⅡ	デザインにかかせないIllustrator、Photoshopといったグラフィック系ソフトウェアの応用編を学び、見せるためのテクニックを学習する。	2・通	30	1		○		○		○		
36	○		デジタルアプリケーション	先進的な造形、CGソフトウェアを使用し、必要なスキルを身に着ける。	3・前	60	2		○		○		○		
37	○		デザインCADⅠ	製品をデザインし、形にしていって図面の制作は欠かせない。必要となるCADによる製図の描画方法を身に付ける。	1・前	60	2		○		○		○		
38	○		デザインCADⅡ	3D特有の操作方法、表現方法を身に付けて製品作りの理解を深める。またそれをプレゼンテーションにまで展開する。	2・通	90	3		○		○		○		
39	○		デザインCADⅢ	3DCADソフトのオペレーションを習得する中で、より高度な製品図面の描画法を習得する。	3・後	90	3		○		○		○		
40	○		マーケティングⅠ	「モノ」と「コト」の新しい価値を提案する「ライフスタイル提案シート」を作成、発表する。テーマに沿って、マーケティング活動を実施する。	2・後	30	1		○		○		○		
41	○		マーケティングⅡ	商品開発では誰に何を提供するかがしっかり構築されなくてはならない。マーケティング手法を実際に体験しながら目的を持った商品開発の意義を理解する。	3・前	30	1		○		○		○	○	
42	○		ポートフォリオ制作Ⅰ	自分の情報を伝える手段として、就職面接の際に実践的に活用できる作品集の制作手法を身につける。	2・前	30	1		○		○		○		
43	○		ポートフォリオ制作Ⅱ	就職活動に必要なポートフォリオをそれぞれの個性が伝わるように改善する手法を学び完成度を高める。	3・通	30	1		○		○		○		
44	○		プロダクト総合演習Ⅰ	2年生の集大成として、各自テーマを決め試作する。	2・後	120	4		○		○		○		
45	○		プロダクト総合演習Ⅱ	商品化を想定した題材を各自で決め試作する。	3・前	90	3		○		○		○		
46	○		キャリアプランⅠ	「自分自身を知ること」から始め、働くことに対する意識を高める。	1・前	30	1	○			○		○		
47	○		キャリアプランⅡ	特にコミュニケーション能力を強化することを重視し、様々な場面で対応できる能力形成を目的とする。	2・通	30	1	○			○		○		
48	○		卒業制作	3年間で学んできたことの集大成として、実社会へ踏み出す前の実績をつくる。研究成果に対しては外部の人や企業からの評価を受ける。	3・通	360	12				○		○	○	
49	○		展示計画	卒業研究に取り組むにあたり、材料・素材の研究と加工の演習を実施し、各自の研究・制作に備える。プロダクト検定に基づいたデザイン開発の習得とプロダクト検定の取得を目指す。	3・通	30	1				○		○	○	
50	○		産学連携プロジェクトⅠ	外部で開催されるイベントの目的に合わせたインスタレーションを製作。発案から製作、設置までをクラス全員で力を合わせて作り上げる大切さと難しさを習得する。	1・通	30	1				○		○	○	
51	○		産学連携プロジェクトⅡ	テーマの掘り下げからコンセプト立案・レンダリング・モデリングという一連のデザインプロセスを経て、産業界であるbud brand及び関連企業にプレゼンテーションを行う。	2・通	60	2				○		○	○	
52		○	共通選択科目	共通選択科目は1年次30時間以上、2年次60時間以上、3年次30時間以上履修しなければならない	全	120	3		○		○		○		
合計					52	科目			94	単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・ 必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がないこと		1学年の学期区分	2期
履修方法： 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。		1学期の授業期間	19週
（留意事項）			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		大場 厚始		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養 専門課程		インテリア・空間デザイン科 (旧インテリアデザイン科)		平成23(2011)年度	-	平成28(2016)年度		
学科の目的	本科は、住まいや店舗のインテリアをデザインしたり、コーディネートしたりすることができる空間デザイナーの育成を目的としており、住宅の他、街並やイベント、劇場にいたる様々な空間を効果的に表現するため、図面や模型、CGなど、多彩な提案方法を実際の制作活動を通して身につけている。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	AFT色彩検定3級、インテリアコーディネーター資格試験、建築CAD検定3級、ビジネスマナー検定3級								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,050 単位時間	1,830 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
60 人	71 人		0 人		0 %	12 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		20 人						
	■就職希望者数(D)		20 人						
	■就職者数(E)		20 人						
	■地元就職者数(F)		17 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		85 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体: -				受審年月: -				
					評価結果を掲載したホームページURL -				
当該学科のホームページURL	https://www.sdc.ac.jp/course/id								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				2,880 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				240 単位時間				
	うち必修授業時数				240 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				240 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位				
	うち必修単位数				単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				2 人				
	計				5 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				5 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
インテリアデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。
(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
業界団体 関係者	静岡県広告業協会 理事長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	①
関係先企業A	デザイン系企業 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業B	通信系企業 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業C	デザイン系企業 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業D	住宅会社 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
関係先企業E	住宅会社 代表	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
関係先企業F	業界紙編集担当	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
中島 康弘	静岡デザイン専門学校 副校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 教務課長補佐 グラフィックデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
鈴木 宏幸	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月5日(月) 10:00～12:00
第2回 令和8年3月28日(金) 10:00～12:00
0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ
12月 ～ 次年度授業計画の策定
1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布
2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 実践的な授業実施について協力的で、最新の技術習得に意欲的な企業を選定している。演習課題では様々なデザイン事例を活用し、新しい生活スタイルの提示法とプレゼンする方法を身につけられるよう要請している。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
建築設計製図Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	1年次で身に付けた製図の基礎を元に、非木造建築	個人設計事務所
建築環境工学Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	環境に対する考え方の基本的知識を得て、環境と	個人設計事務所
構造力学	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	構造に関する基本的知識を得て、構造からデザイン	個人設計事務所
空間デザイン基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	空間デザインを行うために必要な立体認識力、立体	個人設計事務所
エクステリアプランニング	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	エクステリアに関する基本的な知識、住宅その他の	エクステリア系企業
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	プロの照明デザイナーに聞くシリーズ	連携企業等：	JLCA
期間：	1日間	対象：	学科担当教員
内容	『住まいの明るさとは』馬場美次[パバヨシジ]照明デザイナー		
研修名：	顧客ニーズの傾向と省エネ法改正で押さえておくべきこと	連携企業等：	JLCA
期間：	1日間	対象：	学科担当教員
内容	顧客ニーズの傾向と省エネ法改正で押さえておくべきこと		
研修名：	SketchUpPro トレーニング	連携企業等：	株式会社アルファコックス
期間：	1月	対象：	学科担当教員
内容	初級、中級、上級		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	指導力向上研修	連携企業等：	学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催
期間：	45663	対象：	学校所属全教員
内容	ファシリテーションスキル修得		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	未定	連携企業等：	未定
期間：	未定	対象：	担当学科教職員
内容	業界動向を踏まえ情報収集・技術習得などの研修を行う。具体的な内容は今後検討する。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	指導力向上研修	連携企業等：	未定
期間：	未定	対象：	学校所属全教員
内容	学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は今後検討する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)教育活動
(3)教育活動	(3)教育成果
(4)学修成果	(4)学生支援
(5)学生支援	(5)教育環境
(6)教育環境	(6)学生の募集と受け入れ
(7)学生の受け入れ募集	(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8)財務	(8)社会貢献・地域貢献、国際交流
(9)法令等の遵守	(7)に項目化
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。
学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
卒業生	設計事務所	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
保護者	静岡デザイン専門学校 後援会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者代表
近隣住民代表	地元発展会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	近隣住民代表
関係先企業A	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業B	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業C	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業D	花き業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業E	美容系業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 インテリア・空間デザイン科 (旧インテリアデザイン科))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2	○				○	△	○	
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2	○				○	△	○	
3	○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2	○				○	△	○	
4	○			建築設計製図Ⅰ	縮尺(1/100・1/50など)で描くことにより、図面の基本的な描き方やルールを身につける。木造建築に必要な なる平面図・立面図・展開図・断面図・矩計図の描き方を学ぶ。	1・通	60	2	△	○			○		○	
5	○			建築設計製図Ⅱ	1年次で身に付けた製図の基礎を元に、非木造建築の各種図面の描き方を学ぶ。また実際の空間と図面を関連付 けながら、構造部の名称、納まりなどを理解する。	2・前	60	2	△	○			○		○	○
6	○			建築設計製図Ⅲ	2級建築士製図試験問題の演習を行う。設計課題(問題文)を読み取る力からゾーニング、プランニング(エ スキ)の進め方。時間内に書き上げる作図方法の手順を学ぶ。	3・前	60	2	△	○			○		○	
7	○			建築計画Ⅰ	自分で考え、計画したプランを、正確に図面に描き起こしていく基本的な技術知識を身につける。住環境のリ フォ어의設計・デザイン手法を学ぶ。	2・後	60	2		○			○		○	
8	○			建築計画Ⅱ	自分で考え、計画したプランを、正確に図面に描き起こしていく基本的な技術知識を身につける。住環境の新 築の設計・デザイン手法を学ぶ。	3・前	60	2		○			○		○	
9	○			建築環境工学Ⅰ	環境に対する考え方の基本的知識を得て、環境とデザインをどう考えたらよいのか、空間をどのようにとら えていけばよいのかを模型を作成して立体でその効果を検証し、環境とデザインの関係性に対する理解力を身に つける。	1・後	60	2	○	△			○		○	○
10	○			建築環境工学Ⅱ	光や風、周辺の地理的条件という人間の生活と密接な関わりのある環境と、そこに建てられる建物のデザイ ンとの関係性について学ぶことで、形態と環境の関係性の理解を深める。	2・後	30	1	○	△			○		○	
11	○			建築環境工学Ⅲ	省エネ法や省エネ設備について学び、ゼロエネルギーのための建物のあり方を知る。持続可能な社会実現のた めに、自然エネルギーを活用したパッシブ手法の設計を行う。	3・前	30	1	△	○			○		○	
12	○			建築設備	建築設備の用語、各設備の方式の概要に加え、設備計画の法令等を理解する。建築全体の省エネ対策で、設 備が必要とされることを理解する。	2・前	30	1	○	△			○		○	
13	○			構造力学	構造に関する基本的知識を得て、構造からデザインをどのように考えればよいのか、力の流れをどのように捉 えればよいのか、構造モデルを作成しながら構造的観点の力を身につける。	2・前	30	1	○	△			○		○	○
14	○			建築一般構造Ⅰ	建築構造の基本と木構造について理解する。建築物にかかる力やいろいろな構造形式を学習し。木材につい ての知識、各部の構成部材や接合部の仕組みを知り、それらの名称を覚える。	1・後	30	1	○				○	△	○	○
15	○			建築一般構造Ⅱ	鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造について理解する。鉄骨構造の材料である鋼材、鉄筋コンクリート構造の材 料であるコンクリートについての知識、それぞれの構造の各部の構成部材や接合部の仕組みを知り、それら の名称を覚える。	2・前	30	1	○				○		○	○
16	○			建築材料	座学だけでは理解出来ないインテリア材料について、メーカーショールームの見学を中心にした授業を行い、 実践で使えるインテリア材料の知識を身に付ける。同時に業界の認知を深める。	1・通	60	2	○				○	○		
17	○			建築生産	インテリアの材料発注の業務や見積書作成の業務等で必要となる積算について学ぶ。建築に関わる材料の生産 工程を学ぶ。	3・前	30	1	○				○		○	
18	○			建築法規	建築行為を行うために遵守しなければならない法令があることを習得する。法令の詳細な内容や具体的な数値 等を見えることを目的とするものではなく、どのような事柄が必要なのかを学習する。	2・前	30	1	○				○		○	
19	○			インテリアコーディネートⅠ	インテリアコーディネーター資格取得を目指し、試験対策及び、インテリアデザイン・建築の基礎知識を身に つける。建築・デザインの歴史、インテリア計画の知識を身に付ける。	1・通	60	2	○				○		○	
20	○			インテリアコーディネートⅡ	インテリアコーディネーター資格取得を目指し、試験対策及び、インテリアデザイン・建築の基礎知識を身に つける。インテリア構成、材料、照明等、インテリア全般に関わる知識を身に付ける。	2・通	60	2	○				○		○	
21	○			家具デザイン	インテリア設計の中に家具の占める割合は多く、既製家具の他、オーダー家具(造作家具)に関する知識が重 要で、家具を構成する材料・構造・制作・製図について学習する。	1・後	30	1	○	△			○		○	
22	○			パース技法Ⅰ	インテリア空間を表現するためのパース手法の中でも基本となる一点パースの描き方を習得する。 着色道具(マーカー、色えんぴつ)を使った、着色手法を学ぶ。	1・通	60	2		○			○		○	
23	○			パース技法Ⅱ	様々なシーンを手描きパースで表現する。プレゼンテーションやクライアントに提案することを想定した、短 時間でも描ける手法をトレーニングする。	2・後	30	1		○			○		○	
24	○			デザインCADⅠ	JW_CADの基本操作の学習。建築CAD検定3級過去問題集を製図。建築CAD検定3級を必須で受験する。	1・前	60	2		○			○		○	
25	○			デザインCADⅡ	3DCADで、三次元パースが描けるスキルを習得する。Sketch Upを使用しての立体図作成のスキルを身に付け る。	2・前	60	2		○			○		○	
26	○			空間デザイン基礎	空間デザインを行うために必要な立体認識力、立体造形力、空間把握力を、いくつかの実験課題を通して養 う。	1・通	60	2		○			○		○	○
27	○			巨匠デザイン学	個性ある新旧の世界の巨匠たちのデザインを通し、その時代背景、デザインの成り立ち、製作のプロセスを知 る。巨匠ごとにレポートを作成し、興味と知識をより深める。	1・通	30	1	○				○		○	○

28	○		色彩学	幅広い分野で色彩を効果的に美しく活用できるように、実習課題を通し感性の向上を図る。色彩検定3級受験を必須とし、合格に向けて色彩学の基礎を習得する。	1・後	60	2	○	△	○		○			
29	○		デザインアプリケーションⅠ	デザインの現場で必須であるデザイン系ソフト、Illustrator、Photoshopの基本操作を習得する。	1・通	120	4		○	○		○			
30		○	デザインアプリケーションⅡ	Illustrator、Photoshopを使用したレイアウト技法取得及びビジュアルデザイン表現力の強化。また、与えられた課題のルールの中で、いかに美しいレイアウトを実現できるかを学ぶ。	2・前	30	1		○	○		○			
31		○	デジタルアプリケーション	ツインモーションを活用したCGスキルを習得し、プレゼンテーションに活かす。また、映像技術として、動画を作成するオペレーションを身に付ける。	3・後	30	1		○	○		○			
32		○	デッサン	「立方体・円柱・円すい・球」など基本形の描き方を習得します。形が正確にとれること、明暗法、遠近法、量感、質感の表し方等、身の回りにあるものをモチーフに表現します。	1・前	60	2		○	○				○	
33		○	平面構成	平面デザインにおける表現力・発想力を磨く。アナログ表現（手作業）を基本としながら発想法やアイデアスケッチも学ぶ。	1・通	60	2		○	○		○			
34		○	ブランニング技法	条件を読み取る力、インテリアブランニングに必要とされる技術を身に付ける。クライアントを納得させるプレゼン方法を知る。	2・後	30	1		○	○		○			
35		○	照明設計Ⅰ	光源や照明器具の知識と、住空間における光の役割を学び、空間を生かす照明デザインテクニックを習得し、実際の図面に配灯する。	2・後	30	1	○	△	○				○	
36		○	照明設計Ⅱ	商業施設の照明デザインテクニックを学び、実際の設計に照明配灯をする。	3・前	30	1	○	△	○				○	
37		○	インテリアモデル	他授業との連携により計画された図面（条件）を基に実際の建築模型の組立て方を検討し制作する。空間構成を把握すること、プレゼンツールとして有効活用することを学ぶ。	2・後	30	1		○	○				○	
38		○	インテリアデザイン	住宅設計・デザインを考える上で、「誰のために・何のために・どうなるために」を考え、ライフスタイルから空間をデザインする思考を養う。	2・後	60	2	△	○	○		○			
39	○		店舗デザイン概論	商業施設として店舗設計の概論を座学で学ぶ。そのうえで、実在する空間を使い店舗デザインを行う。ブランドイメージを汲み取る作業、手を動かす（作図、模型）感覚を学習する。	2・後	30	1	△	○	○				○	
40	○		空間コーディネート実践	インテリアコーディネート、テーブルコーディネーションの概論を学び、原寸の空間で空間演出の実践を行う。	2・前	30	1	△	○	○				○	
41	○		エクステリアプランニング	エクステリアに関する基本的な知識、住宅その他の建築物の敷地における外部空間の重要性を学ぶ。エクステリア図面の描き方やパースの描き方また模型の作り方を学習する。	2・前	30	1	○	△	○		○		○	○
42	○		ポートフォリオ制作Ⅰ	自分のスキルや感性を伝える手段として、就職面接の際に実践的に活用できるポートフォリオを制作する。	2・後	30	1		○	○		○			
43	○		ポートフォリオ制作Ⅱ	自分のスキルや感性を伝える手段として、就職面接の際に実践的に活用できるポートフォリオを更にブラッシュアップする。	3・前	30	1		○	○		○			
44	○		マーケティングⅠ	商品開発の裏付けとなるマーケティングの基本概念を学ぶ。社会に求められるデザインを生み出すためのプロセスを理解する。	2・前	30	1		○			○		○	
45	○		マーケティングⅡ	商品開発の裏付けとなるマーケティングの基本概念を学ぶ。卒業研究の企画を、背景や根拠となる情報をベースに、独自性のあるコンセプトとして組み立てる。	3・前	30	1		○			○		○	
46	○		ライフスタイル研究	住宅にあるそれぞれの空間がもつ機能や生活行為などを考え、現代のライフスタイルに合わせた空間のインテリアを提案する。	3・後	30	1	○	△	○		○			
47	○		店舗設計	実在する空間を使い、物販或いは飲食を目的とした店舗の設計を課題として取り組む。店舗計画に必要なVMDの知識を習得し、実店舗を使いディスプレイ製作を行う。	3・前	60	2		○	○	△		○		
48	○		外部空間デザイン	都市計画、公共施設などのデザインについて知る。事例を学びながら人と環境、街（建物）の在り方をリサーチする。	3・前	60	2	○	△		○	△		○	
49	○		キャリアプランⅠ	社会人基礎力について。学生生活・社会人に必要なビジネスマナーについて学ぶ。	1・通	30	1	○				○			○
50	○		キャリアプランⅡ	社会人としてのビジネスマナーを身につけるため、ビジネス実務マナー検定3級を取得を目指す。社会に出て行く準備や、就職活動に向けた心構えを身につける。	2・通	30	1	○				○			○
51	○		卒業研究	個人テーマを開拓し、調査・研究・計画・デザイン・製作の一連の作業を通し個人作品を完成させ、発表する。	3・通	360	12		○			○		○	△
52	○		産学連携プロジェクトⅠ	産学連携プログラム。外部と連携した実際の仕事を体験することで、実践力を養う。	1・前	30	1		○		○	△	○		
53	○		産学連携プロジェクトⅡ	企業・地域との外部連携では、実際の仕事の流れを体験することで、実践的な学びを得る。企業と連携することで、デザインしたものが実現するまでのプロセスや成果を体験できる。	2・通	60	2		○		○	△	○		
54	○		産学連携プロジェクトⅢ	企業・地域との外部連携では、実際の仕事の流れを体験することで、実践的な学びを得る。クライアントが求める要件をロジカルにデザインへ落とし込む。	3・前	60	2		○		○	△	○		
55		○	共通選択科目	共通選択科目は1年次30時間以上、2年次60時間以上、3年次30時間以上履修しなければならない 詳細は別表参照	全	120	4	△	○		○	△	△	○	
合計					55	科目		96 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
卒業要件：・必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がないこと				1 学年の学期区分	2 期
履修方法：必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。				1 学期の授業期間	19 週
（留意事項）					
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。					
2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。					

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		大場 厚始		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-252-1766			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養 専門課程		フラワーデザイン科		平成27(2015)年度		-	平成28(2016)年度	
学科の目的	本科はフラワーアレンジメント等の装飾知識だけでなく、花の栽培、流通等にわたる幅広い学習をする。また、花による表現の基礎知識であるデッサンや色の知識を習得し、花で思いを表現できる実践力を育成し、花関連企業をはじめとするフラワー業界で活躍できる人材育成を目的とする。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	AFT色彩検定3級、エクステリアプランナー3級、ブライダルコーディネーター検定3級、商業ラッピング検定3級								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			420 単位時間	1,140 単位時間	390 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率			
40 人	35 人		0 人		0 %	5 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		19 人						
	■就職希望者数(D)		18 人						
	■就職者数(E)		18 人						
	■地元就職者数(F)		11 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		61 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		95 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報)								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体: -				受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL -				
当該学科の ホームページ URL	https://www.sdc.ac.jp/course/fd								
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				1,950 単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				90 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				420 単位時間				
	うち必修授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				90 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				420 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				60 単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位				
うち必修単位数				単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				2 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」
関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
フラワー業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
業界団体 関係者	一般社団法人 花の国日本協議会理事	令和7年4月1日～令和8年3月31日	①
関係先企業A	花き業界 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業B	花き業界 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
関係先企業C	花き業界 デザインスクール学院長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	③
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
中島 康弘	静岡デザイン専門学校 副校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
永峯 秀紀	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 教務課長補佐 グラフィックデザイン科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	—
鈴木 裕美	静岡デザイン専門学校 フラワーデザイン科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	—
			—
			—
			—
			—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月5日(月) 10:00～12:00
第2回 令和8年3月28日(金) 10:00～12:00
0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ
12月 ～ 次年度授業計画の策定
1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布
2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学習成果の評価における連携内容を明記 生花店等の実際の業務に携わり、職業人としての基本行動を理解することができる連携先を選定している。また、学生の就職希望に繋げることが可能な連携先を選定している。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学習成果の評価における連携内容を明記 担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
イベントアレンジメントⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	イベントディスプレイ装飾を想定した大きな空間に飾	フラワー系企業
フラワー装飾法Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級合格を目標	フラワー系企業
環境デザイン論Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	建築と自然(植物)をテーマに「空間の活かし方」を学ぶ	フリーデザイナー
ブライダルコーディネート	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ブライダルプランナーとして基礎知識を習得し、全日本ブライダルコンテストに出場	フラワー系企業
産学連携プロジェクトⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	清水港フラワーション及び、デザインアラモードのフラワーションを学ぶ	フリーデザイナー
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名： オランダフラワーデザイン		連携企業等： Dorien Flower Design	
期間： 1日間		対象： 学科担当教員	
内容： ブルーミストインストラクター 資格試験			
研修名： 初級園芸福祉士養成講座		連携企業等： 日本園芸福祉普及協会	
期間： 1日間		対象： 学科担当教員	
内容： 初級園芸福祉士養成講座			
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名： 指導力向上研修		連携企業等： 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催	
期間： 45663		対象： 学校所属全教員	
内容： ファシリテーションスキル修得			
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名： 未定		連携企業等： 未定	
期間： 未定		対象： 担当学科教職員	
内容： 業界動向を踏まえ情報収集・技術習得などの研修を行う。具体的な内容は今後検討する。			
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名： 指導力向上研修		連携企業等： 未定	
期間： 未定		対象： 学校所属全教員	
内容： 学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は今後検討する。			

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)教育活動
(3)教育活動	(3)教育成果
(4)学修成果	(4)学生支援
(5)学生支援	(5)教育環境
(6)教育環境	(6)学生の募集と受け入れ
(7)学生の受け入れ募集	(7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8)財務	(8)社会貢献・地域貢献、国際交流
(9)法令等の遵守	(7)に項目化
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。
学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
卒業生	設計事務所	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
保護者	静岡デザイン専門学校 後援会	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者代表
近隣住民代表	地元発展会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日	近隣住民代表
関係先企業A	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業B	デザイン系企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業C	百貨店 人事部	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業D	花き業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
関係先企業E	美容系業界企業	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sdc.ac.jp/school_info/public
公表時期: 45838

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 フラワーデザイン科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員 兼任 担任	企業等との 連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外		
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	1・通	60	2			○	○	△	○	
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	2・通	60	2			○	○	△	○	
3	○			ＩＴリテラシーⅠ	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・前	30	1		○	△	○			○
4	○			ＩＴリテラシーⅡ	インターネット上のサービスを効率よく利用することや、SNSに拠る情報発信について学ぶ。プレゼンテーションスキル向上に役立たせる。	2・前	30	1		○	△	○			○
5	○			デザイン発想・基礎造形Ⅰ	様々な創作活動に共通する基本的なデザイン感覚を身につける。また多くの素材や既存の作品に触れ、表現方法の幅を広げていく。	1・通	90	3		○	△	○		○	○
6	○			デザイン発想・基礎造形Ⅱ	1年次で学んだ素材知識をもとに、より幅のあるデザインに発展させ、作品の質を向上し、完成度の高い制作をする。	2・通	60	2		○	△	○			○
7	○			デザインアプリケーション	デザインの現場で必須アプリであるデザイン系ソフト、Illustrator、Photoshopの基本操作を習得する。ポートフォリオの制作スキルを身に付ける。	1・後	60	2		○		○			○
8	○			色彩学	色彩の知識を基礎に、顧客のニーズに応え、満足いただけるアレンジや花束等をデザインする方法を学んでいく。また、色の持つイメージと効果も学び、配色のコツを覚える。	1・前	60	2	○			○		○	○
9	○			フラワーアレンジメントⅠ	花を通して、高齢者施設等での植物のあり方や植物を介して人と接することの役割を演習からが学ぶ。	1・通	90	3		○		○			○
10	○			フラワーアレンジメントⅡ	生産者から消費者への広い花の業界の中で様々なデザインやスタイルのバリエーションのアレンジメントを制作できるよう生花を主に、レッスン1から発展していく。	2・通	60	2		○		○			○
11	○			イベントアレンジメントⅠ	基礎を学ぶことで得た技術を用い、様々なアイテムを制作する。小さなアレンジメントだけでなくディスプレイ装飾の魅せ方を学ぶ。	1・?	30	1		○		○			○
12	○			イベントアレンジメントⅡ	イベントディスプレイ装飾を想定した大きな空間に飾る花の魅せ方を学ぶ。	2・?	30	1		○		○			○
13	○			ブライダルフラワーアレンジメント	ブライダルフラワーアレンジメントを想定した様々な場面での花の魅力を引きだすためのアレンジメントやアピール、アプローチを学ぶ。	2・?	30	1		○		○			○
14	○			生け花	日本伝統の華道について学習する。流派は国風華道会・小原・池坊・草月・古流松籐会。	2・前	30	1		○		○		○	○
15	○			フラワー装飾法Ⅰ	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級合格を目指し、花束やアレンジの基本を身につける。また、技能五輪出場者は、2級合格を目指して訓練する。	1・通	30	1		○		○			○
16	○			フラワー装飾法Ⅱ	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級合格を目指し、花束やアレンジの基本を身につける。また、技能五輪出場者は、2級合格を目指して訓練する。	2・後	60	2		○		○			○
17	○			園芸Ⅰ	四季の植物の育て方と用土、肥料など園芸基礎を学ぶ事によりお客様からの園芸相談や商品解説を時代に合った方法、言葉で解説できるように、実習作業でより理解も深まるようになる。	1・前	90	3		○		○	△		○
18	○			園芸Ⅱ	実店舗で実習する事で、店頭での対応、仕事内容が具体的に理解でき、就職後即役立つことを学ぶ。	2・通	120	4		○		○	△		○
19	○			ガーデンデザイン	ガーデンデザインに限らず、エクステリア全般について紹介し、エクステリアの仕事に必要な知識を得る。	1・後	30	1		○		○			○
20	○			環境デザイン論Ⅰ	建築と自然（植物）をテーマに「空間の活かし方」を学ぶ	1・?	30	1	○			○			○
21	○			環境デザイン論Ⅱ	建築と自然（植物）をテーマに「空間の活かし方」を学ぶ	2・?	30	1	○			○			○
22	○			ブライダルコーディネート	ブライダルプランナーとして基礎知識を習得し、全日本ブライダル協会が主催する「ジュニアライセンス検定試験」取得を目指す。ブライダル施設の見学や現場のそれぞれの担当者役割について学習し、テーブルマナーについて理解を深める。	1・通	60	2	○			○			○
23	○			接客マナー	人前でも臆することなく自信を持って堂々と話ができるようにし、美しい立ち居振る舞いができ、正しい滑舌、正しい敬語を使い、好印象を与える接客ができる。	1・通	30	1		○		○			○
24	○			サービス接遇	サービス業とはどのようなものかを考え、ビジネスの場でのサービス接遇というもの、顧客との接し方、具体的な考え方・行動の仕方・会話方法などを学ぶ。	1・通	30	1	○			○			○
25	○			ビジネスプランニング	・企画を立てる上での基本となる考え方やアプローチの仕方を学ぶ。様々な仕事場面で求められる企画作業に必要な要素として、発想力、構成力、表現力という3つの側面から学習し、企画を組み立てるプロセスとその全体像を理解できるようにする。	2・?	60	2	○			○			○
26	○			ラッピング装飾	商業ラッピングの基礎知識を身に付け付帯贈答の基本的な包装ができる。 「商業ラッピング3級検定試験」の合格を目指す。	2・後	30	1	○			○			○
27	○			フラワービジネス論	フラワービジネスの基本知識の習得。産地生産、市場流通、病害虫、法令の基礎的な知識を学ぶ。	1・前	60	2	○			○			○

28	○		フラワービジネス演習	店頭演出計画の立案や店舗運営時の店内業務に必要な、VMDの基礎知識を学び、実習を通してヴィジュアルプレゼンテーションのスキルを習得する。店舗運営視点と顧客視点を学んだ上で実店舗を視察し、売り場演出と共に集客や売上に繋げる方法を学ぶ。写真を撮影できるようになることで、制作した作品をしっかりと記録でき、更に客観的に作品と対峙できるよう意識する。	1・後	30	1	○			○			○	
29	○		ショップマネージメントⅠ	店舗運営に必要な売上・仕入と在庫、利益等、計数管理に関する基本知識を習得できる	1・前	30	1		○		○			○	○
30	○		ショップマネージメントⅡ	店舗責任者・売場責任者として計数管理を応用し、品揃え・仕入・販促企画と連動した売上目標の設定から売上分析ができる	2・通	30	1		○		○			○	○
31	○		実習店舗	オリジナルショップを提案することを通し、会社の設立と経営について学習する。	2・通	90	3				○	○	○	○	
32	○		キャリアプラン	社会人に必要な基本的ビジネスマナーを学ぶことで、今後の学生生活における心構えを身につける。さらに、コミュニケーション能力を強化し、今後の就職活動における面接に備える。	1・通	30	1	○			○			○	
33	○		インターンシップⅠ	生花店や園芸店、青果市場等、お花関連企業に出向き研修先現場において業務研修を5日間行う。	2・前	60	2				○		○	○	○
34	○		産学連携プロジェクトⅠ	清水港フラワーショー及び、デザインアラモードのフラワーショップの準備とフラワーショップ実習を行う。	1・通	30	1		△	○	○	△	○	○	○
35	○		産学連携プロジェクトⅡ	地域での対外イベントに参加するを通し、コミュニケーション能力の向上、責任感を持って行動することを学ぶ。	2・通	30	1		△	○	△	○	○	○	
36	○		卒業制作	学生としての集大成。自分自身の勉強した事柄全てを一つの作品にこめて作ることで2年間の実力を知る。	2・通	90	3		△	○	○			○	
37	○		共通選択科目	共通選択科目は1年次30時間以上、2年次60時間以上履修しなければならない	全	90	3		○		○			○	
合計						37	科目	63 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：・必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。		1 学期の授業期間	19 週
（留意事項）			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			

授業科目等の概要

	全学科 分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	授業方法			場所		教員	企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任
1		○		研修旅行Ⅰ	海外研修を通じ、国外の歴史・文化・生活に触れ、視野を広げる。日本と海外のデザインの違いなどを学ぶ。海外生活やグループ行動を通し、生活力や協調性を身につける。	全	60			○		○	○	
2		○		研修旅行Ⅱ	国内研修を通じ、国内の様々な歴史・文化・生活に触れ、視野を広げる。グループ行動を通し、生活力や協調性を身につける。	全	30			○		○	○	
3		○		色彩検定 3 級講座	デザインに関連する仕事を遂行する上で必要とされる色彩の基礎や配色、イメージにあったカラーコーディネートを取得し、色彩検定3級合格を目指します。	全	30		○		○			○
4		○		色彩検定 2 級講座	色彩に関する基礎知識を踏まえ、A.F.T色彩検定2級合格を目指します。	全	30		○		○			○
5		○		色彩検定 1 級講座	色はどのように人と関わっているのか、視知覚と色知覚のメカニズムについて理解する。	全	30		○		○			○
6		○		色彩検定 U C 級講座	1)「視覚情報のユニバーサルデザイン」の重要性を認識できる 2)多様な見え方に配慮した色づかいについて理解できる 3)見えづらい例を示し、改善点を分かりやすく説明できる	全	30		○		○			○
7		○		パーソナルカラー（モジュールⅠ）講座	カラーコーディネートの重要性・関連性に基づき、パーソナルカラーの知識を身につけ、自分ブランディングからお客様にアドバイスできる力を習得します。パーソナルカラー検定モジュールⅠ（初級レベル）合格を目指します。	全	30		○		○			○
8		○		パーソナルカラー（モジュールⅡ）講座	「色彩技能パーソナルカラー検定モジュール2」試験の合格。モジュール1からステップアップして、さらに深い理論とパーソナルカラーの活用法を知る・パーソナルカラーに役立つ実践的な色を見分ける技術及び理論を理解する・指定された色に対し、色彩理論に基づいた特性を見分けられること	全	30		○		○			○
9		○		セルフメイク検定講座	ベーシックの内容を元にスキンケア・メイクアップにおける基礎知識を覚える。セルフメイク検定試験の課題メイクを時間内にトータルで綺麗に仕上げる事が出来る。	全	30	○			○			○
10		○		ワープロ検定講座	授業終了までに、10 分間で 400 字以上の入力ができるようにする。ビジネス文書（社外文書・社内文書）の基本ルールが理解でき、編集操作技術が習得できる。日本語ワープロ検定試験 3 級以上に合格できる。	全	30		○		○			○
11		○		ビジネス実務マナー検定講座	ビジネスパーソンとして、基本的な判断や行動ができるようになる。また、ビジネスにおいて必要な人間関係の構築やマナー、話し方などを修得することなど、「ビジネス社会の基本ルール（＝職場常識）」の知識と規範（行動の型）を身につけられる。これを以って、ビジネス実務マナー検定 3 級合格を目指すレベルになる。	全	30		○		○			○
12		○		マンガ検定講座	色々なキャラクターを創造し描くことができる。構図に合わせて色々な角度でキャラクターを描くことができる。読者に感情移入してもらいやすいキャラクターの創造。	全	30		○		○			○
13		○		イラストレーター基礎講座	・ Illustratorの使い方を習得する ・ 印刷物を制作するためのノウハウを習得する	全	30		○		○			○
14		○		フォトショップ基礎講座	・ Photoshopの使い方を習得する ・ 印刷物を制作するためのノウハウを習得する	全	30		○		○			○
15		○		イラストレーター検定講座	Adobe Illustratorのオペレーション（操作方法）を身に付ける。サーティファイ主催の能力認定試験スタンダードに合格できる技術と知識の習得を目標とする。	全	30		○		○			○
16		○		フォトショップ検定講座	Adobe Photoshopのオペレーション（操作方法）を身に付ける。サーティファイ主催の能力認定試験スタンダードに合格できる技術と知識の習得を目標とする。	全	30		○		○			○
17		○		3 D C A D 基礎講座	3DCAD(Solidworks)による曲線・曲面のモデリング技法を学び、デザインスケッチや三面図から3Dカーブと自由曲面でモデリングして、CGでアイディアを表現するプロセスを習得し、実践力を身に付けることを目標にする。	全	30		○		○			○
18		○		2 D C A D 基礎講座	3DCAD (Solidworks) による立体(ソリッド)のモデリング技法を学び、デザインスケッチや三面図から立体をモデリングして、CGでアイディアを表現することを目標とする。	全	30		○		○			○
19		○		S N S 活用	デジタルメディアを理解し、セルフプロモーション力を習得する。	全	30		○		○		○	
20		○		写真	最低限のカメラ操作や写真の概念を学習する。 SNS映える写真の特徴を知る。 「映える写真（エモい写真）」の撮り方を覚える。	全	30		○		○		○	
21		○		映像編集講座	動画制作における、企画～納品までのワークフローを理解する。 CMなど映像作品を分析し、魅力的な動画編集の技法を習得する	全	30		○		○			○
22		○		デジタル造形	デジタル造型を行いながら、造形を把握する。 スカルプトモデリングの基本を理解する。	全	30		○		○			○
23		○		アニメーション基礎	手描きのアニメーションと、CGアニメーション両方を実習することで、それぞれのワークフローを理解する。	全	30		○		○			○

24	○	パース技法	■手描きスケッチのテクニックを習得し習慣化する。■手描きスケッチで自分のイメージする立体を自由自在に表現出来るよう演習する。■今後、プロダクトデザインを学ぶ上で、自分がイメージする形状を自ら確認し、且つ第三者が見ても形状確認が出来るまでのスキルを身に付ける。	全	30	○	○	○								
25	○	レタリング講座	表現力・発想力の向上と、用具の使用スキルや画材・テキストチャート選択の幅を広げることができる。講評会では考えを伝えることのみならず学生間のコミュニケーションも大切に、個々のもつ感覚を発見しながら伸ばすことも目標とする。	全	30	○		○							○	
26	○	ビジネスアプリケーション	パソコンやスマホなどを利用し、Microsoft365（PowerPoint、Excelなど）を使用して、多方面から情報を収集し、目的に応じて情報をまとめて、報告する為の資料を作成できる力を養う。	全	30	○		○							○	
27	○	デッサン演習	デッサンを通して見る力を養う。 アナログの表現をデジタルに活かせるようにする。 集中力の持続と、制作に対する心構え、デッサンの目的をそれぞれの自覚のもとにすすめる。	全	30	○		○							○	
28	○	イラストレーション基礎	基本的なイラストが描けるようになる。 絵を描くことに慣れること。	全	30	○		○							○	
29	○	イラストレーション演習	画材（ペン＝コピックライナー、コピック使用予定）の基本的な使い方を身につける。	全	30	○		○							○	
30	○	ファッションデザイン画	ファッションデザイン画の基礎を習得する。様々な着装・素材・発想表現が出来る。	全	30	○			○						○	
31	○	素材研究（金属）	金属（真鍮）の板を加工しネームプレートを制作する。真鍮板を切る、削るという基本的な加工技術を理解、習得するとともに金属の特性を理解する。銀のペンダントの原型制作をし、金属の鑄造工程の基本を理解する。	全	30		○		○						○	
32	○	素材研究（革）	革の特性や加工方法を学び、クオリティーの高い革製品を製作できるようになる。	全	30			○	○						○	
33	○	素材研究（ガラス）	暮らしの中での様々な場面で用いられている『ガラス』という素材に触れ、その素材の特質を知り、ガラスを用いた新しいプロダクト・クラフトの可能性を模索する。	全	30			○	○						○	
34	○	英会話講座	自分で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションができることができるようになることが目標です。	全	30		○		○						○	
35	○	中国語基礎講座	簡単な中国語会話ができて、中国文化和事情を少し理解する。中国語で接客できるようにする。	全	30		○		○						○	
36	○	韓国語基礎講座	ハングルの読み書き、基本的な文法、初級単語を理解できるレベルを目指す。学期の終わりには韓国語で短い文章を組み立て、話せるようにする。	全	30		○		○						○	
37	○	心理学	・セルフケアやセルフコントロールの方法など、実践的な心理学を学び、私生活・実社会で生かすことができる。 ・自分を知り、他者を知ることを通して、多様性を尊重し合うことができる。	全	30	○			○						○	
38	○	アロマセラピー	香りに興味をもつことをスタートに、心身に深い影響を与えるアロマの力を知ること。 生活の中に安全にアロマを取り入れ、セルフケアが出来ること。	全	30		○		○						○	
39	○	茶道	日本の文化を知り、人を大切にすること心遣いとその作法を修得する。	全	30		○		○						○	
40	○	華道	各様式を理解し、花を活けることができる。	全	30		○		○						○	
41	○	着付け基礎	日本の民族衣装・着物の伝承を目的とする 着装文化・知識・マナーを学び、理解を深める	全	30				○	○					○	
42	○	コピーライティング講座	広告コピーの発想法を学び、実践を繰り返しながら、仕事やSNSなどプライベートでも役立つ「物事を印象的かつ効果的に伝える技術」を身に付けることを目指す。	全	30		○		○						○	
43	○	ラッピング講座	商業ラッピングの基礎知識を身に付け慶弔贈答の基本的な包装ができる。 「商業ラッピング3級検定試験」の合格を目指す。	全	30				○	○					○	
44	○	服飾造形基礎	基本的な直しの技術を身に付け、服飾関係の職業に生かす。また、身近なものの制作や既存のアイテムを生かして創造することでファッションを楽しむ。	全	30				○		○				○	
45	○	知的所有権講座	知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。	全	30		○		○						○	
46	○	フラワーアレンジメント講座	植物の管理方法やフローリストとして必要な知識をや技術を身に付けることができ、オリジナリティ豊かな作品を制作することができる。 日々の花の扱いから、ブライダルフラワー・フューネラルフラワーの知識や技術を身につけることができる。	全	30		○		○						○	
47	○	VMD演習	・店舗、売り場づくりの基本である【商品陳列】から【演出】についての一般的な知識と技術の習得。 ・ブランドコンセプトや商品特性に基づく演出や陳列を学び、VMDを活かした空間設計や客導線を考えたゾーニングができる。 ・展示会のディスプレイの立案、制作、設営	全	30				○	○					○	
48	○	ファッションコーディネート	ファッションコーディネートをする上で必要な、アイテム知識、トレンド知識、色・素材・柄・感覚に視点を置いた論理的なコーディネートの基本を学び自身の表現手法の幅を広げる。2年次の対お客様や芸術的なコーディネート提案へとつなげていく。	全	60				○		○	○				
49	○	ヘアメイク基礎講座	・ヘアメイクの知識、基本的な技術を学び、ファッションをトータルでスタイリングする力をつける。 ・ファッションに合ったヘアメイクを学び、自己表現をの可能性を広げる。	全	30				○		○	○				

50		○	モデルウォーキング	ランウェイでの表現力習得	全	60			○		○	○				
51		○	セルフプロモーション講座	ブランディング・マーケティングを学ぶことで自分自身のより良い見せ方・伝え方を知る	全	30			○		○	○				
52		○	ユニバーサルデザイン基礎	ユニバーサルという視点で世の中を見る事で、誰が何を必要としているのかを考える。また、これからの社会にはどんなデザインや仕組み、概念が必要であるのか、それを実現させるにはどうしたら良いのかを研究するプロセスを学ぶ。	全	30			○	○		○	○			
53		○	アントレプレナー講座	アントレプレナーシップについて自らの価値観や志に照らし合わせて考察することを目的としています。	全	30			○	○		○	○			
54		○	作品制作	学外コンペに出品するための作品制作を行います。キャラクター・ポスターなど様々な内容での制作に向け、ラフスケッチからフィニッシュワークまで、作品制作の考え方を実践を通して学習します。	全	30			○	○		○	○			
55		○	就職講座	①文章力含めたコミュニケーション能力を高める ②社会人意識を身につける ③就職に対する疑問点、不安感の解消 ④実践力をつける	全	30			○	○		○	○			
56		○	体育実技	この授業では、楽しく運動に親しみながら健康と体力の向上を目指す。	全	30			○	○		○	○			
57		○	デザインプロジェクト活動	企業との共同開発を目指し、アイデアから始まり、デザインプロセスを学びながら、製作した作品を外部企業にプレゼンテーションすることで、リアルで客観的な評価を受けることができ、社会とのつながりの中でより実践的なスキルアップを習得する	全	30			○	○		○	○			
58		○	地域連携プロジェクト活動	地域が抱える資源及び問題点を、実際に地域を訪ねることで知り、調査・分析することによって、「まちづくり活動」に貢献することを目指す。	全	30			○	○		○	○			
59		○	資格取得講座Ⅰ	資格取得を通じて、自らの知識・技能の習得を図るとともに、就職活動時のPR材料となる項目を増やす。	全	30			○	○		○	○			
60		○	資格取得講座Ⅱ	資格取得を通じて、自らの知識・技能の習得を図るとともに、就職活動時のPR材料となる項目を増やす。	全	30			○	○		○	○			
61		○	SDGs推進プロジェクト	SDGsをテーマとした活動を行なう。SDGsというテーマで社会にある困りごとを探し、ユーザー側の視点に立った発想で解決すべき課題の設定、解決するための施策の提案を行う。社会の問題に対してデザインがどう関わることが出来るのか、自分なりの視点を持つことを目指す。	全	30			○	○		○	○			
62		○	ボランティア活動Ⅰ	自己実現に向け努力することができるよう、ボランティア活動という経験を通して社会と向き合い、自分自身の今と将来を見極める能力を身につける。	全	60			○	○		○	○			
63		○	ボランティア活動Ⅱ	自己実現に向け努力することができるよう、ボランティア活動という経験を通して社会と向き合い、自分自身の今と将来を見極める能力を身につける。	全	30			○	○		○	○			
64		○	インターンシップⅠ	インターンシップを通じて、各自が自分が目指す業界の企業に出向き、研修を行うことで、就職後の働き方について理解を深める。	全	60			○	○		○	○			
65		○	インターンシップⅡ	インターンシップを通じて、各自が自分が目指す業界の企業に出向き、研修を行うことで、就職後の働き方について理解を深める。	全	30			○	○		○	○			
66		○	チャレンジプログラムⅠ	チャレンジ精神旺盛な社会人を育成することを到達目標とし、実施される研修、イベントのすべてがその土台となるものとする。	全	30			○	○		○	○			
67		○	チャレンジプログラムⅡ	チャレンジ精神旺盛な社会人を育成することを到達目標とし、実施される研修、イベントのすべてがその土台となるものとする。	全	30			○	○		○	○			
68		○	チャレンジプログラムⅢ	チャレンジ精神旺盛な社会人を育成することを到達目標とし、実施される研修、イベントのすべてがその土台となるものとする。	全	30			○	○		○	○			
69		○	チャレンジプログラムⅣ	チャレンジ精神旺盛な社会人を育成することを到達目標とし、実施される研修、イベントのすべてがその土台となるものとする。	全	30			○	○		○	○			
70		○	チャレンジプログラムⅤ	チャレンジ精神旺盛な社会人を育成することを到達目標とし、実施される研修、イベントのすべてがその土台となるものとする。	全	30			○	○		○	○			
合計					70 科目			単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	・ 必須科目の成績評価において不可（評価点 60 点未満）がないこと ・ 年間出席時限数が年間消化時間の 85% 以上であること ・ 学納金が未納でないこと。	1 学年の学期区分	2 期
	履修方法： （2 年制学科） 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。 共通選択科目は 1 年次 30 時間以上、2 年次 60 時間以上履修しなければならない （3 年制学科） 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする。 共通選択科目は 1 年次 30 時間以上、2 年次 60 時間以上、3 年次 30 時間以上履修しなければならない	1 学期の授業期間	18 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の 3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。